

リケンテクノス株式会社

2025年3月期 第2四半期（中間期）
決算・経営概況説明会

2024年11月14日



RIKEN TECHNOS





目次

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み



1.決算概要

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み

2025年3月期上期 連結業績サマリー

| 1.決算概要



(単位：百万円)

	2024年3月期 上期実績	2025年3月期 上期実績	前年同期比	増減率	2025年3月期 上期業績予想
売上高	61,397	63,391	1,994	3.2%	62,500
売上総利益	10,076	11,712	1,636	16.2%	-
営業利益	3,621	4,776	1,155	31.9%	3,900
経常利益	4,202	4,708	506	12.0%	4,000
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,507	2,614	107	4.3%	2,200
1株当たり中間純利益(円)	39.62	47.92	8.30	20.9%	40.00
ROS(%)	5.9	7.5	1.6	-	6.2

2025年3月期上期のナフサ価格：77,950円/KL、平均為替レート：152.33円/USD

➤ 売上高は**過去最高**、各段階利益も**過去最高益**を更新

セグメント別売上高推移

| 1.決算概要



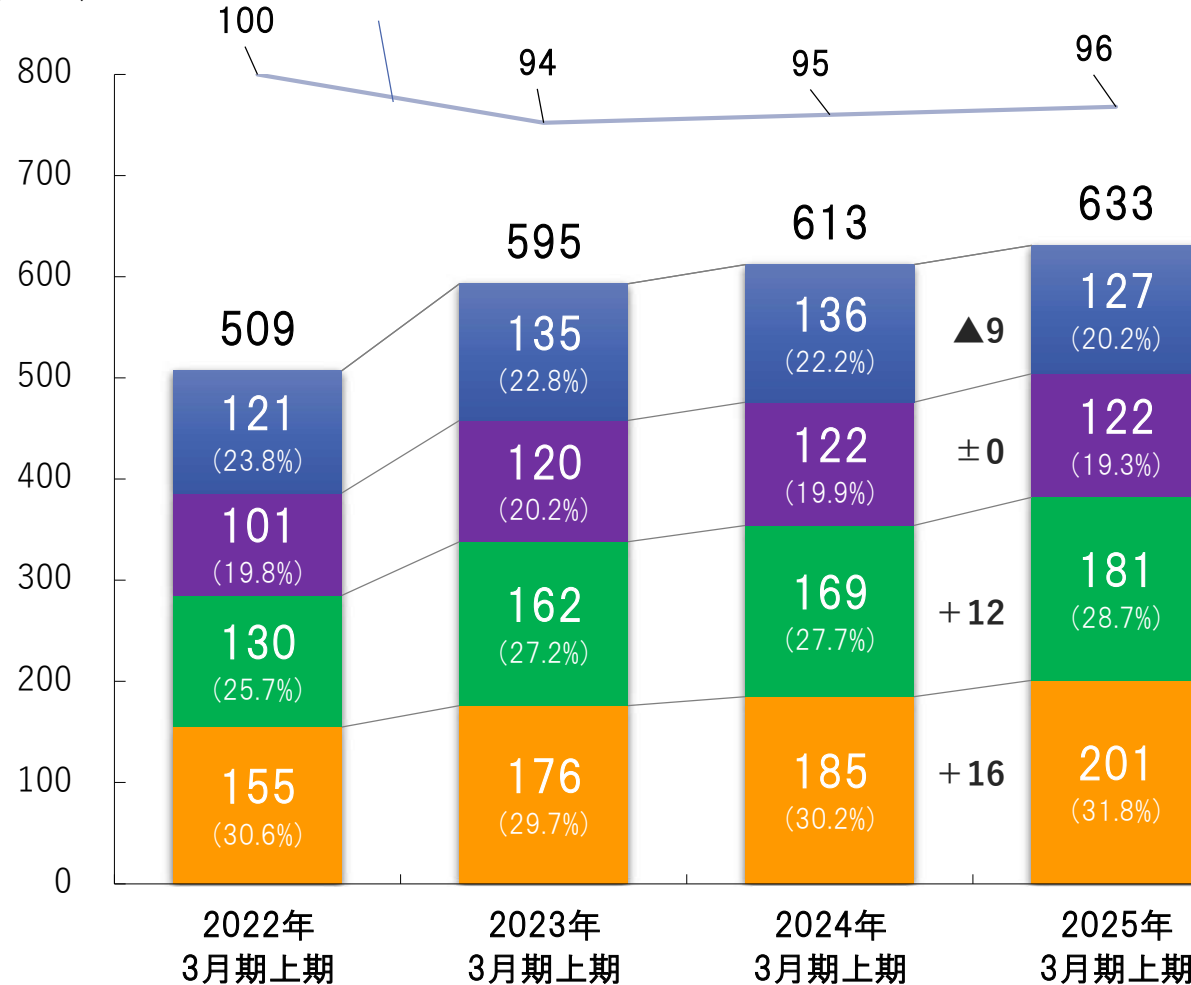
2025年3月期上期 売上高

633億円

前年同期比 **19億円増 (3.2%増)**

(億円)

2022年3月期上期の数量を100とした際の売上数量推移



100

90

80

70

60

50

40

30

20

10

0



■ Building & Construction
住宅、ビル、建築資材、土木市場等

BUILDING & CONSTRUCTION



■ Electronics
エネルギー、情報通信、IT機器市場等

ELECTRONICS



■ Daily Life & Healthcare
医療、生活資材、食品包材市場等

DAILY LIFE & HEALTHCARE



■ Transportation
自動車、鉄道、船舶市場等

TRANSPORTATION

※棒グラフ中のカッコ内%表示は全体に占める各セグメントの割合

地域別売上高推移

| 1.決算概要

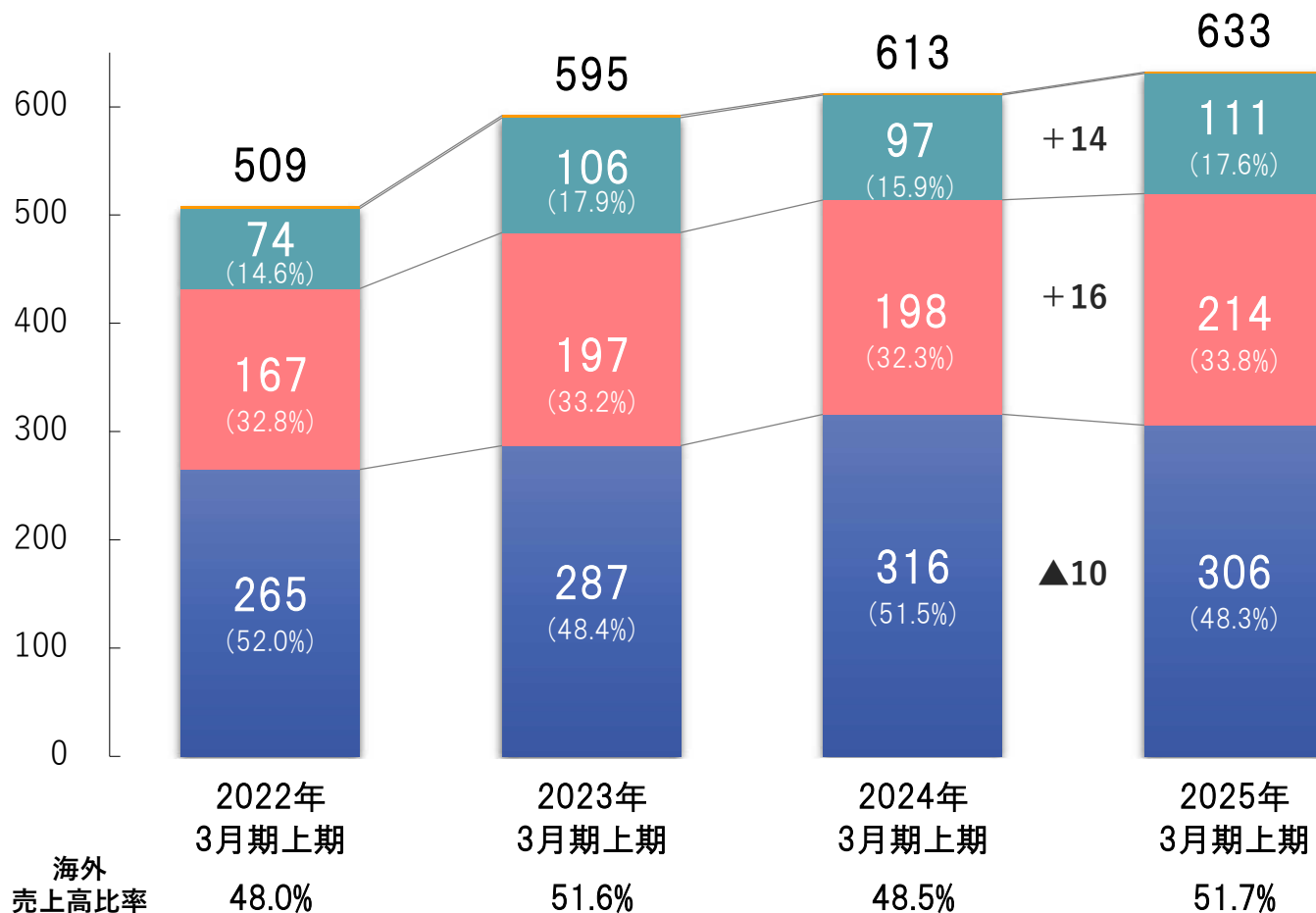


2025年3月期上期 売上高

633億円

前年同期比 19億円増 (3.2%増)

(億円)



- その他
- 北米
- アジア
- 日本

※棒グラフ中のカッコ内%表示は全体に占める各地域の割合

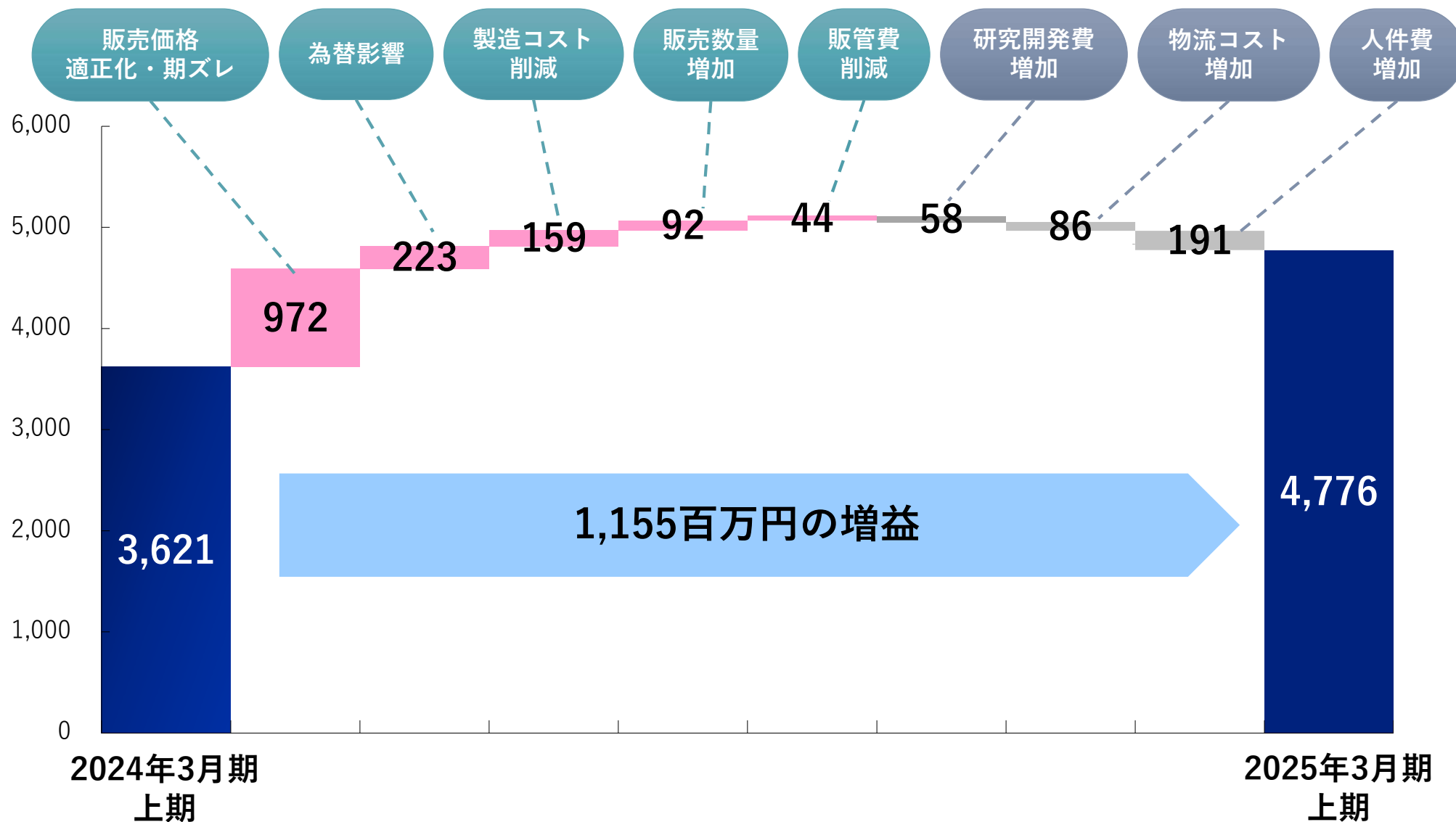
▶ 海外売上高比率は50%超えを達成

営業利益 前期比増減要因分析

1. 決算概要



(単位：百万円)

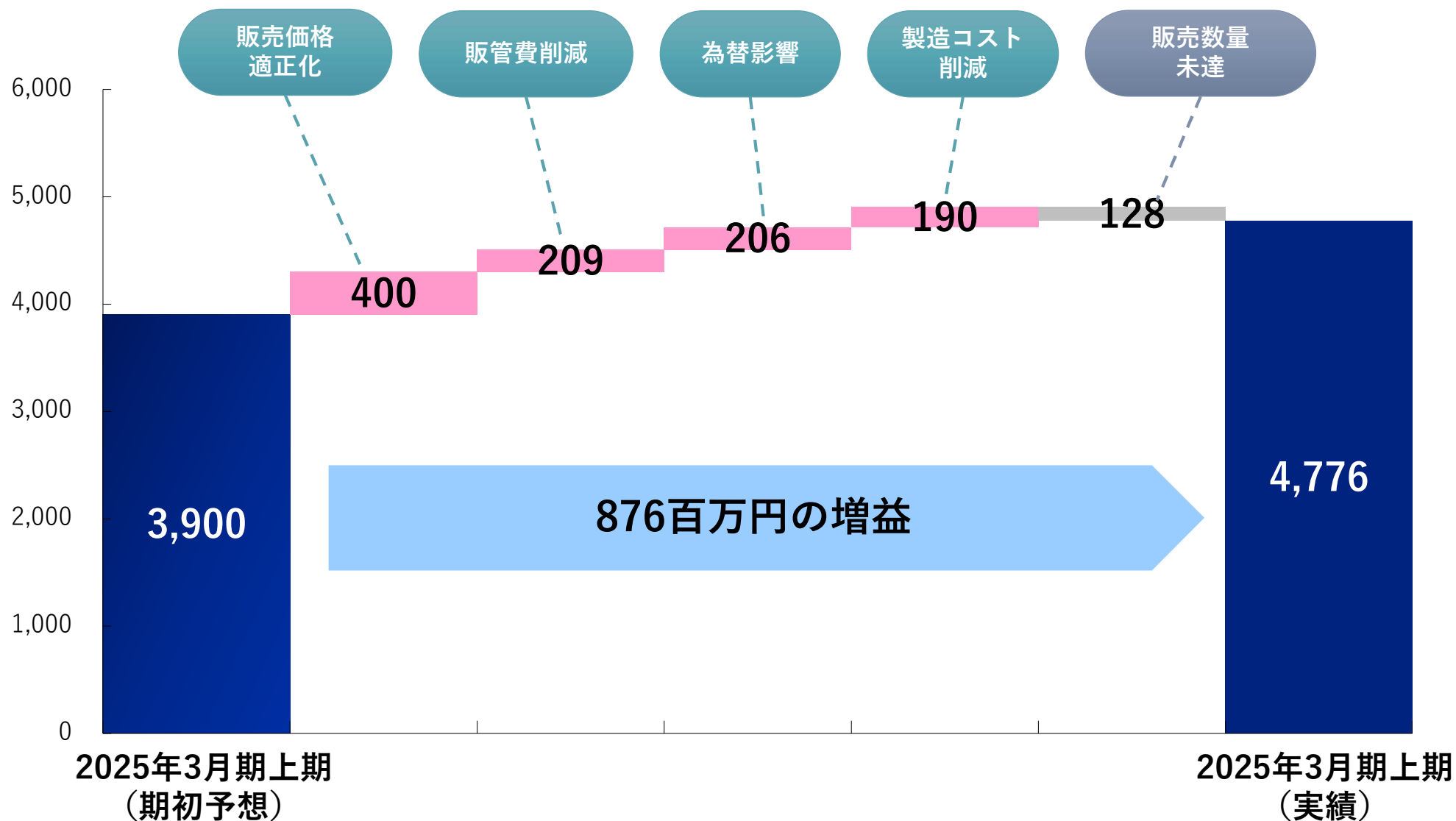


営業利益 予想比増減要因分析

| 1. 決算概要



(単位：百万円)



連結貸借対照表

| 1. 決算概要



(単位：百万円)

	2024年 3月末	2024年 9月末	増減		2024年 3月末	2024年 9月末	増減
流動資産	71,820	72,555	735	負債	41,633	41,496	▲137
現金及び預金	21,879	22,353	474	流動負債	35,432	35,183	▲249
売上債権	29,929	28,387	▲1,542	固定負債	6,200	6,313	113
棚卸資産	19,376	20,731	1,355	純資産	74,017	75,839	1,822
その他	635	1,082	447	資本金	8,514	8,514	-
固定資産	43,829	44,781	952	資本剰余金	6,597	6,597	-
有形固定資産	28,475	30,127	1,652	利益剰余金	39,535	41,021	1,486
無形固定資産	2,247	2,503	256	その他有価証券評価差額金	6,526	5,946	▲580
投資有価証券	10,509	9,635	▲874	非支配株主持分	9,577	10,456	879
投資その他の資産	2,599	2,515	▲84	その他	3,268	3,305	37
資産合計	115,650	117,336	1,686	負債純資産合計	115,650	117,336	1,686

▶ 有利子負債は10,645百万円

連結キャッシュ・フロー計算書

1. 決算概要



(単位：百万円)

	2024年3月期 上期	2025年3月期 上期	増減
a.営業活動によるキャッシュ・フロー	3,099	5,952	2,853
b.投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,435	▲2,220	215
有形固定資産の取得	▲2,372	▲2,038	334
無形固定資産の取得	▲105	▲172	▲67
投資有価証券の売却収入	9	107	98
その他	33	▲117	▲150
c.フリー・キャッシュ・フロー (a+b)	664	3,732	3,068
d.財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,114	▲3,952	▲1,838
自己株式の取得	0	▲1,738	▲1,738
配当金の支払額	▲1,023	▲1,112	▲89
その他	▲1,091	▲1,102	▲11
e.現金及び現金同等物に係る換算差額	465	697	232
現金及び現金同等物の増減額 (c+d+e)	▲985	477	1,462
現金及び現金同等物の期末残高	22,470	22,328	▲142

➤ 自己株式の取得により、財務活動によるキャッシュアウトフローは増加

2025年3月期 連結業績予想

| 1.決算概要



(単位：百万円)

	2024年 3月期 実績	2025年 3月期 期初予想	2025年 3月期 修正予想	従来予想比		前期比	
				差額	伸び率	差額	伸び率
売上高	125,739	130,000	130,000	-	0.0%	4,261	3.4%
営業利益	8,775	9,200	10,000	800	8.7%	1,225	14.0%
経常利益	9,544	9,500	10,000	500	5.3%	456	4.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,880	5,200	5,600	400	7.7%	▲ 1,280	▲18.6%
1株当たり当期純利益(円)	114.24	94.54	104.40	9.86	10.4%	▲ 9.84	▲8.6%
ROS(%)	7.0	7.1	7.7	0.6	-	0.7	-
ROE(%)	10.8	8.0	8.6	0.6	-	▲ 2.2	-

想定国産ナフサ価格：68,000円/KL、想定為替レート：150円/USD

- 価格適正化および円安により営業利益は増益、過去最高益更新を予想
- 各段階利益は当初予想を上回る見込み

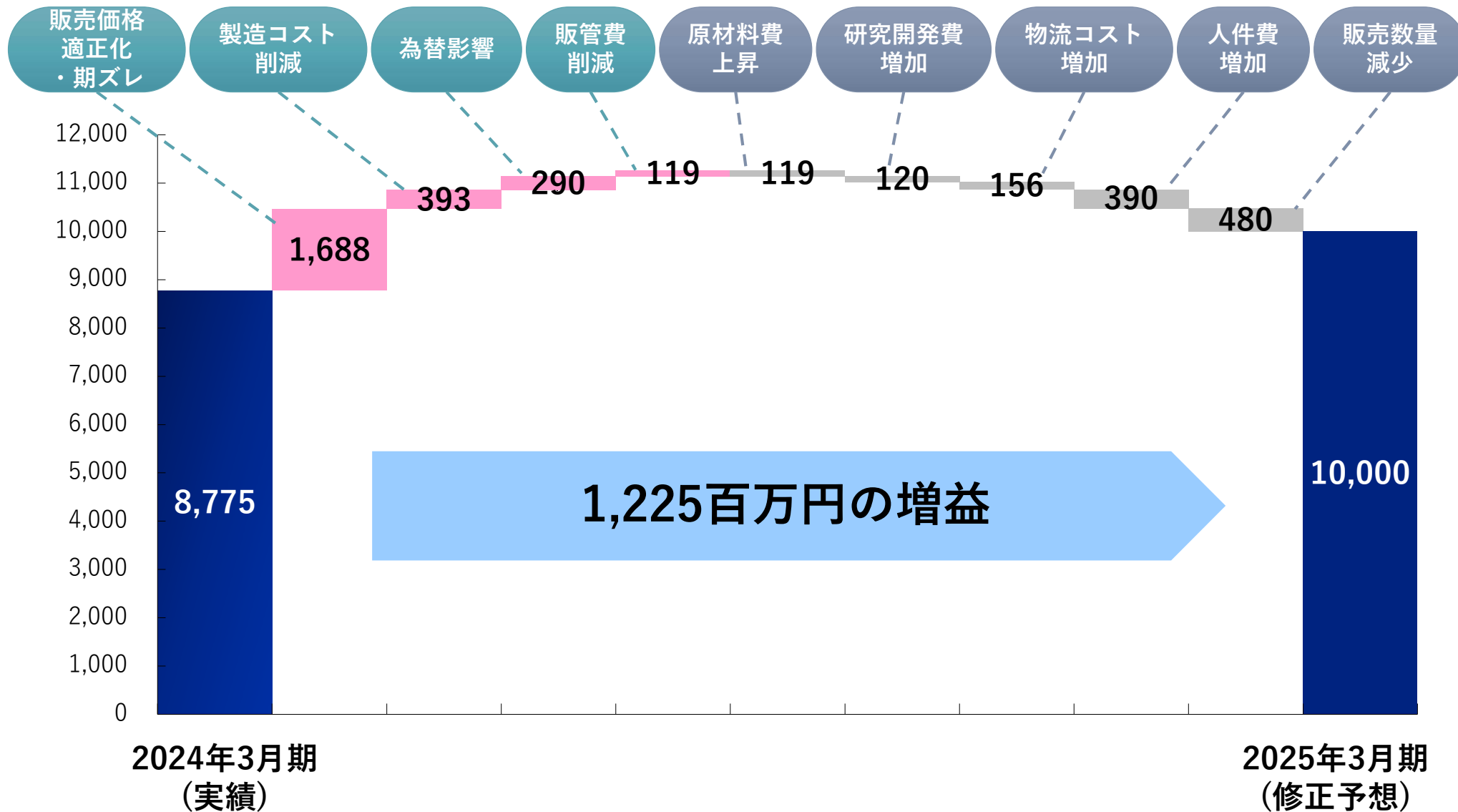
2025年3月期(予想)営業利益

増減要因分析 | 1.決算概要



RIKEN TECHNOS

(単位：百万円)





2.セグメント別概況

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み



Transportation

トランスポーターション



ワイヤーハーネス



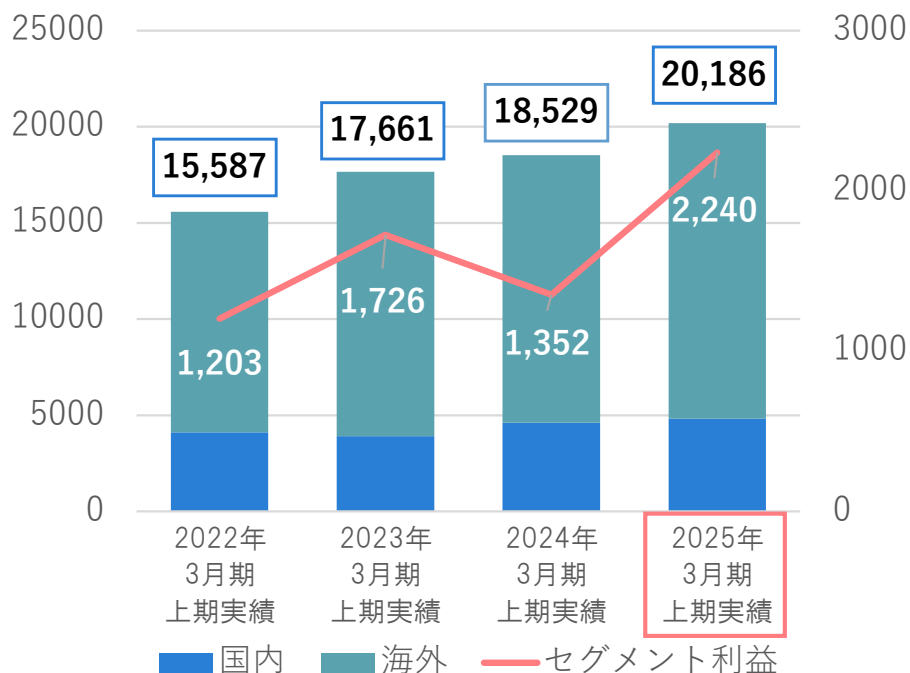
自動車用成形部材



2025年3月期
上期実績

1,658百万円増収 (+8.9%)
888百万円増益 (+65.7%)

(単位：百万円)

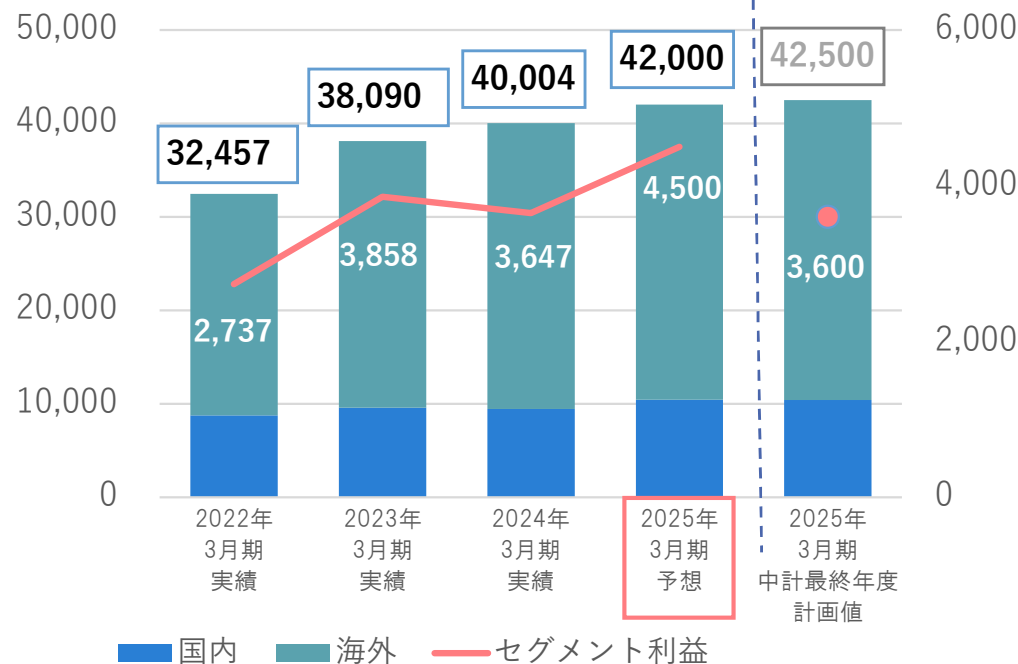


- 国内では、自動車生産は横這いであったものの、同市場へのエラストマーコンパウンドの販売の増加及び高騰した原材料の価格転嫁が進み、増収
- 海外では、ASEAN市場における日系自動車生産の減少に伴い販売が減少したものの、北米の日系自動車生産の増加及び高騰した原材料の価格転嫁が進み、増収
- セグメント利益は、国内のエラストマーコンパウンドの新規拡販と、国内外の販売価格の適正化により、増益

2025年3月期
通期予想

1,996百万円増収 (+5.0%)
853百万円増益 (+23.4%)

(単位：百万円)

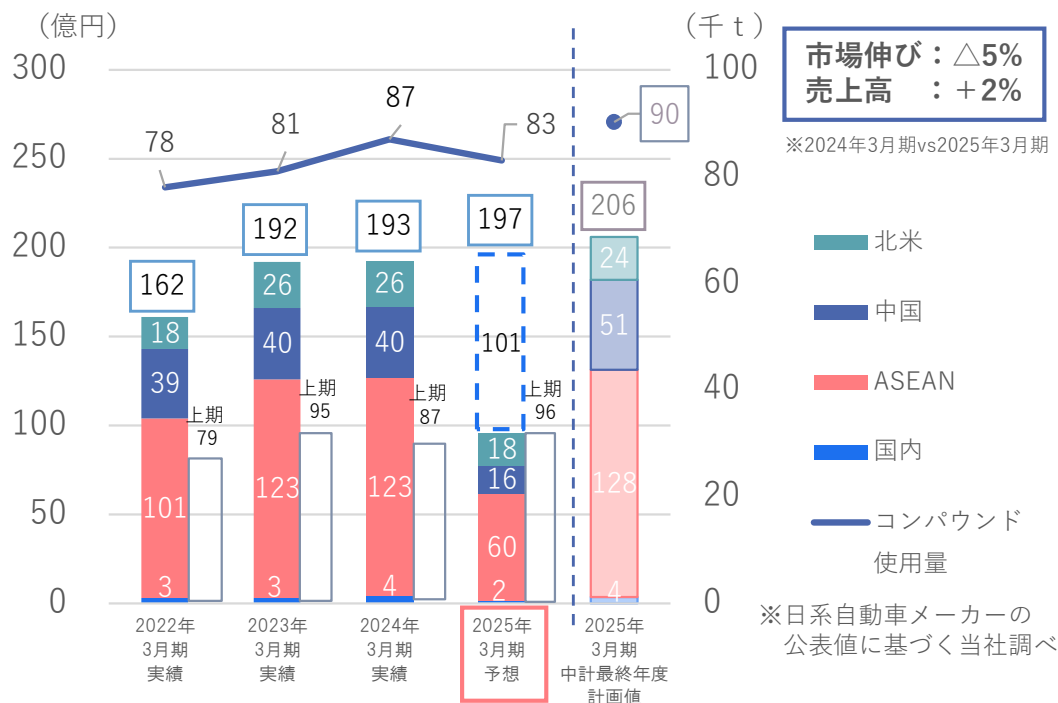


- 国内では、自動車生産はやや減少するものの、同市場へのエラストマーコンパウンドの販売の増加及び高騰した原材料の価格転嫁が進み、増収
- 海外では、ASEAN市場における日系自動車生産の減少に伴い販売が減少するものの、北米・インド国の日系自動車生産の増加及び高騰した原材料の価格転嫁が進み、増収
- セグメント利益は、国内のエラストマーコンパウンドの新規拡販を継続し、国内外の販売価格の適正化により、増益



重点分野① ワイヤハーネス

日系W/Hメーカーコンパウンド使用量と当社W/H向けコンパウンド売上高



2025年3月期 上期実績

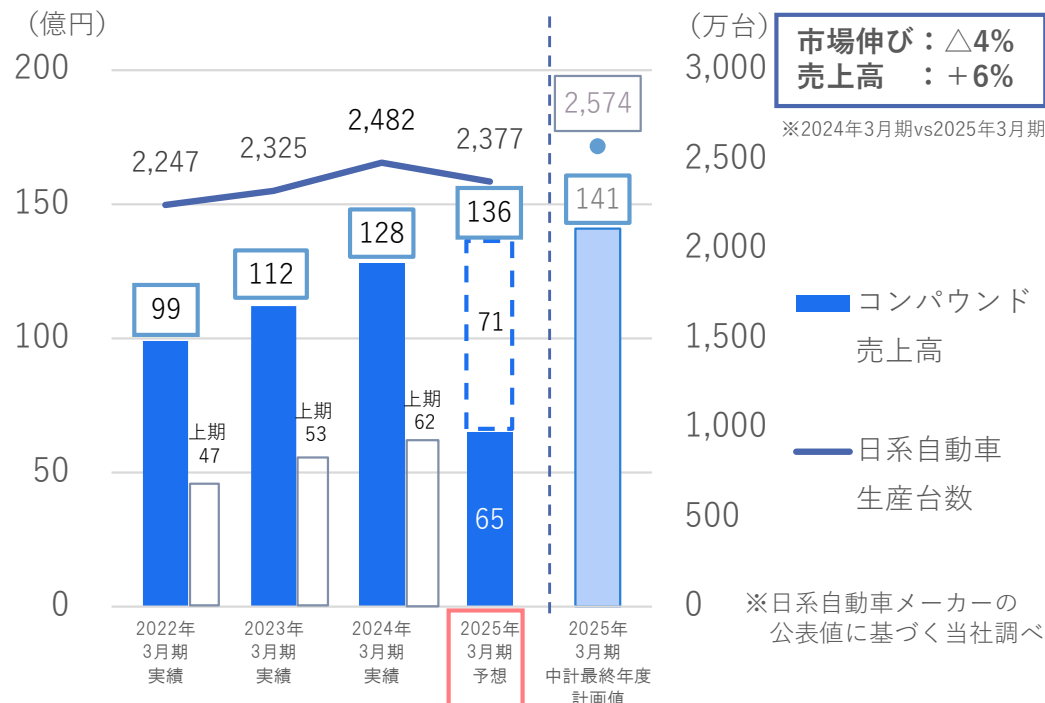
- 原材料の高騰から販売価格を適正化、薄肉電線向けコンパウンドの販売比が前年比増
- 市場優位性のある薄肉電線向けコンパウンドの販売開始

2025年3月期 下期施策

- 日系自動車向けシェアを維持
- 市場優位性のある薄肉電線向けコンパウンドの市場投入とグローバルでの顧客承認獲得
- 非日系向け拡販戦略の策定

重点分野② 自動車用成形部材

日系自動車生産台数と自動車用成形部材向けコンパウンド売上高



2025年3月期 上期実績

- 日系シールメーカーへの新規案件の拡販
- 日本で採用されたシール・機能部品の海外展開を実施

2025年3月期 下期施策

- 日系シールメーカーへの新規拡販分の確実な取込み
- 日本で採用されたシール・機能部品の海外展開を継続



Daily Life & Healthcare

デイリーライフ & ヘルスケア



医療用 (PVC)



ゴム代替

Daily Life & Healthcare

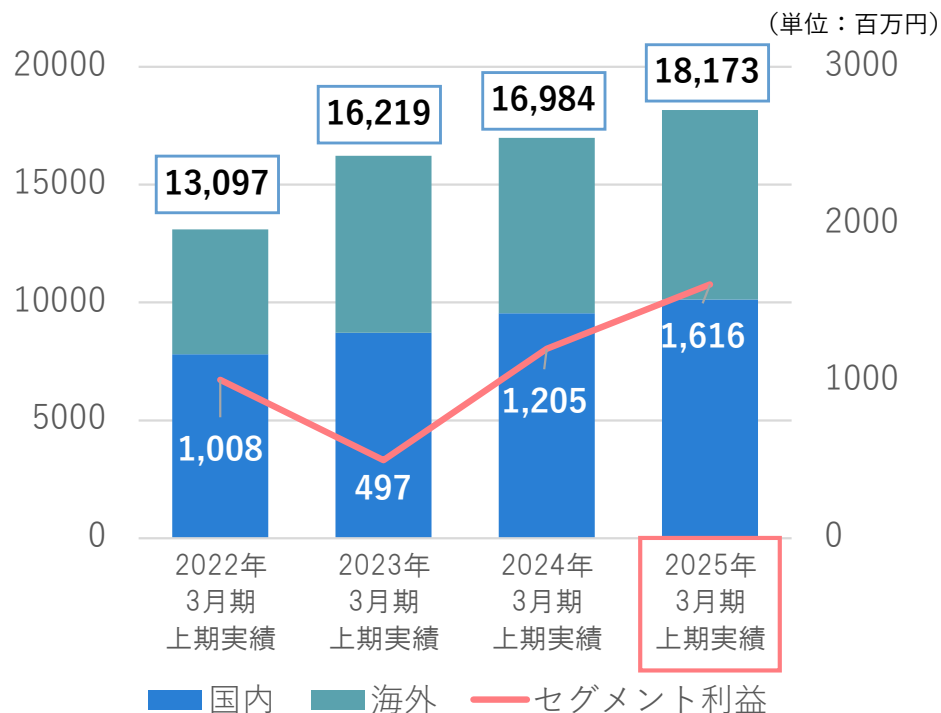


2.セグメント別概況



2025年3月期
上期実績

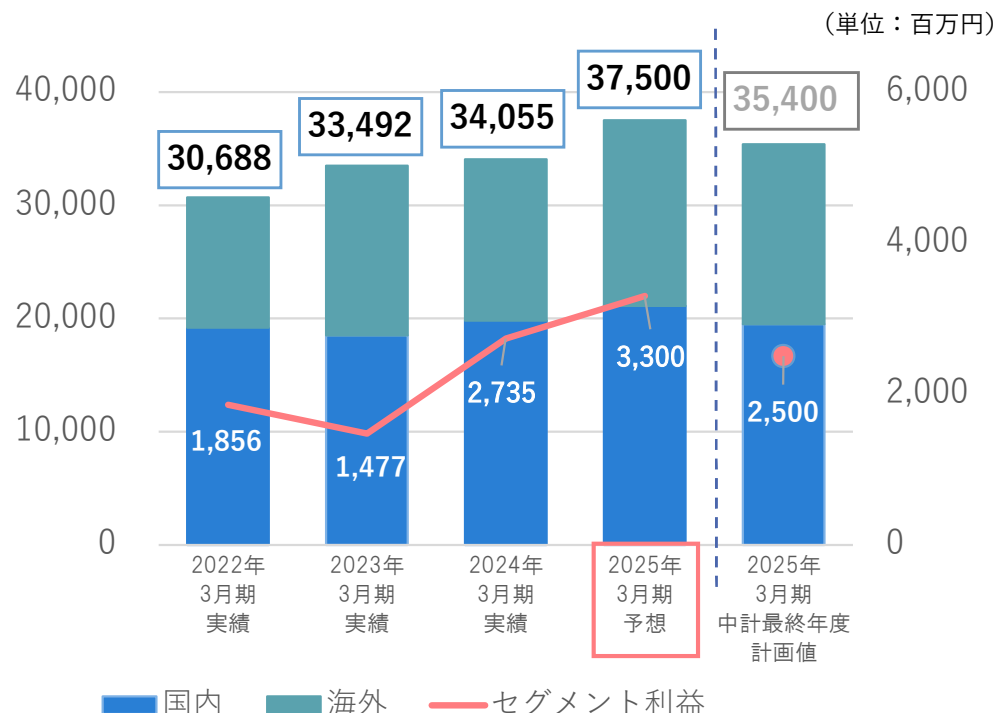
1,189百万円増収 (+7.0%)
411百万円増益 (+34.1%)



- 国内では、生活資材向け塩ビコンパウンドの販売が減少したものの、小巻ラップ製品及び生活資材向けエラストマーコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、主にタイ国、米国での生活資材・医療向け塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- セグメント利益は、小巻ラップ製品及び海外での生活資材・医療向け塩ビコンパウンドの販売増加により、増益

2025年3月期
通期予想

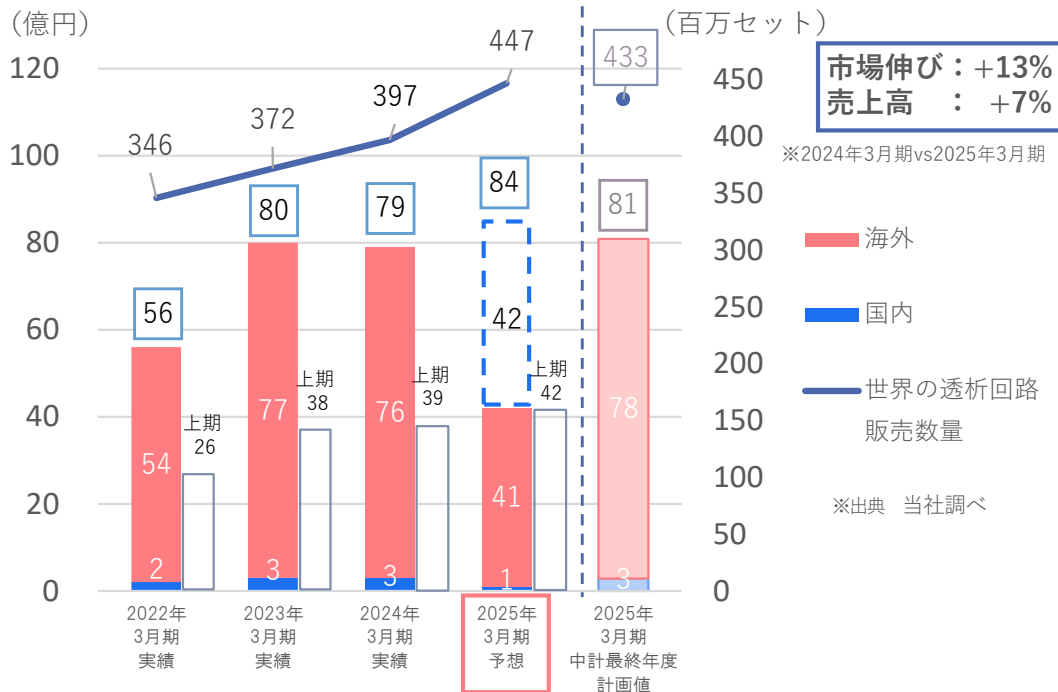
3,445百万円増収 (+10.1%)
565百万円増益 (+20.7%)



- 国内では、小巻ラップの販売が好調に推移し、また生活資材向けエラストマーコンパウンドの販売増加により、増収
- 海外では、米国・ASEAN拠点での生活資材・医療向け塩ビコンパウンドの販売増加により、増収
- セグメント利益は、小巻ラップ製品及び国内・海外での生活資材・医療向けコンパウンドの販売増加により、増益

重点分野① 医療用(PVC)

透析回路の販売数量と当社医療用PVCコンパウンド売上高



2025年3月期 上期実績

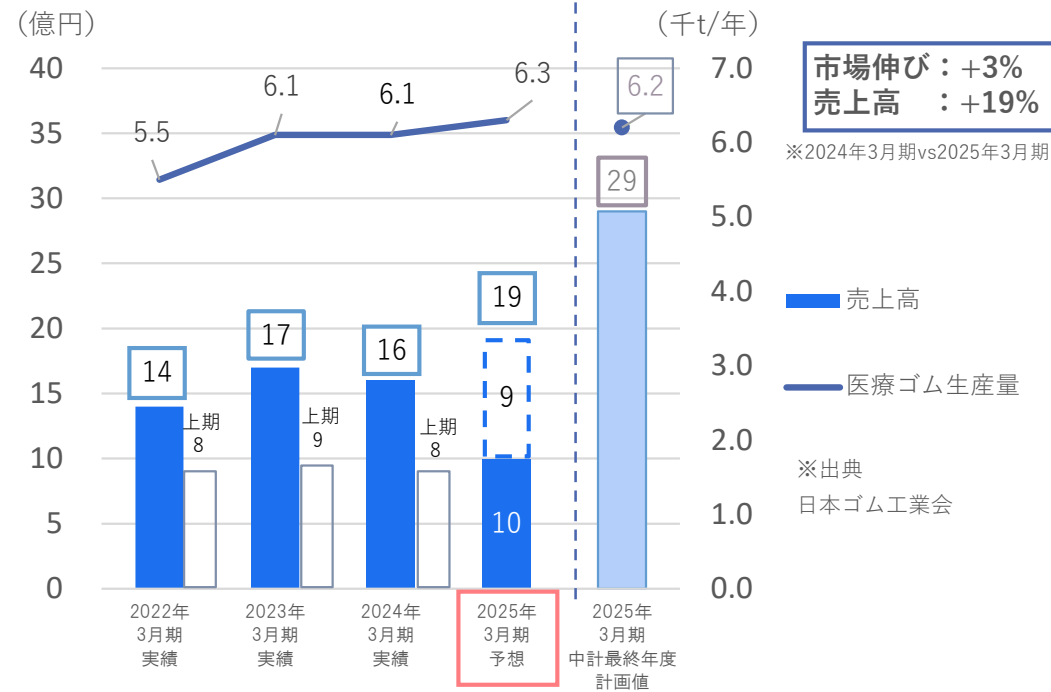
- 日系顧客の日本および北米市場向け透析回路材の販売増加
- 日系顧客の欧州市場向け透析回路材の拡販

2025年3月期 下期施策

- ASEANにおける日系顧客向けの販売増加
- 非日系顧客への拡販

重点分野② ゴム代替

国内医療ゴム生産量と当社ゴム代替コンパウンド売上高



2025年3月期 上期実績

- 国内では、医療用栓体、飲料用キャップシールのエラストマーコンパウンドの販売増加
- 海外では、ASEAN市場向け生活・産業資材向けエラストマーコンパウンドの顧客承認取得
- 輸液栓の顧客承認遅れ等により、中期計画から乖離

2025年3月期 下期施策

- 国内では、シリンジガセットと輸液栓エラストマーコンパウンドの新規拡販に向けた顧客承認取得活動開始
- 海外では、シリンジガセット材の顧客承認取得活動継続

Electronics

エレクトロニクス



電力・産業電線



情報通信

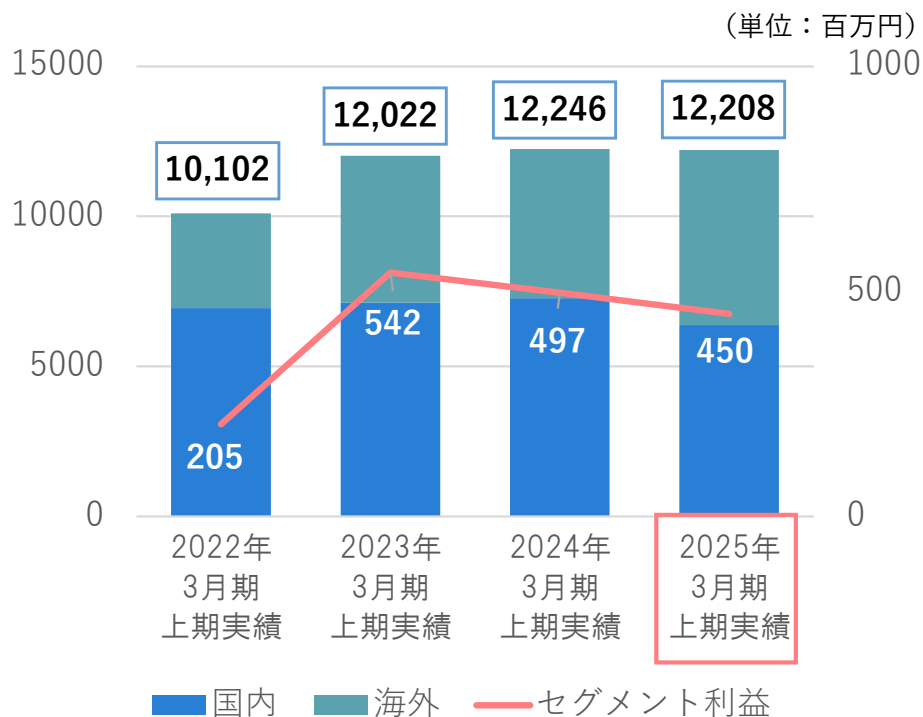


光学フィルム



2025年3月期
上期実績

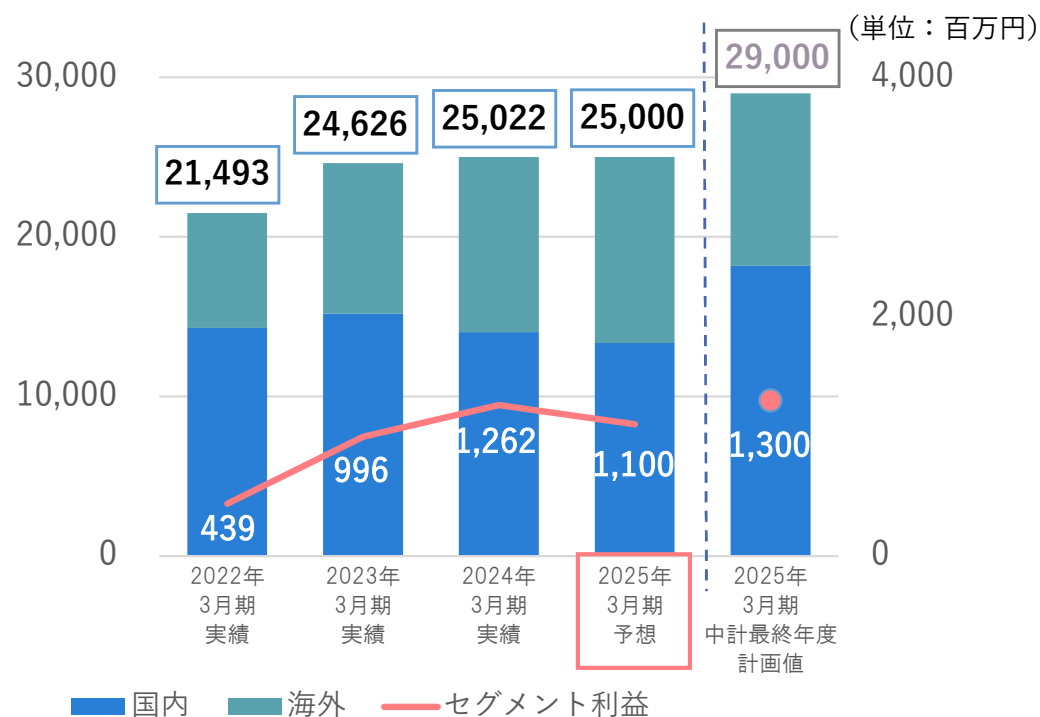
38百万円減収 (△0.3%)
47百万円減益 (△9.5%)



- 国内では、電力・産業用電線向けコンパウンドの販売が増加したものの、機能性フィルムの販売が減少し、減収
- 海外では、米国・ASEAN市場向け塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- セグメント利益は、機能性フィルムの販売減少により、減益

2025年3月期
通期予想

22百万円減収 (△0.1%)
162百万円減益 (△12.8%)



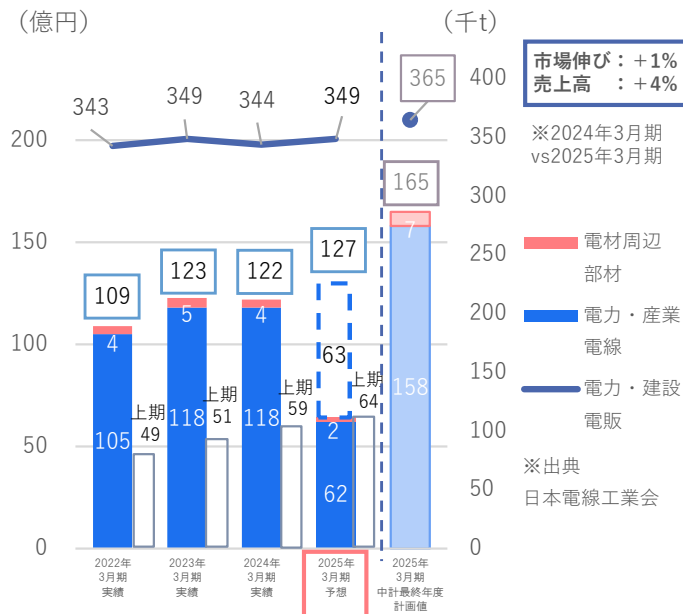
- 国内では、ロボット・FA・機器電線向けコンパウンド及び電力・産業用電線向けコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、光学フィルムの販売が減少するものの、米国・ASEAN市場向け塩ビコンパウンドの販売増加により、増収
- セグメント利益は、米国における原料価格高騰の転嫁遅れにより減益

※ 前年第1四半期まで連結子会社であったリケンテクノスインターナショナル株式会社の当社への吸収合併の影響により、同セグメント全体では減収



重点分野① 電力・産業電線

国内の電力・建設電販市場向け電線銅量と当社コンパウンド売上高 (億円)



2025年3月期 上期実績

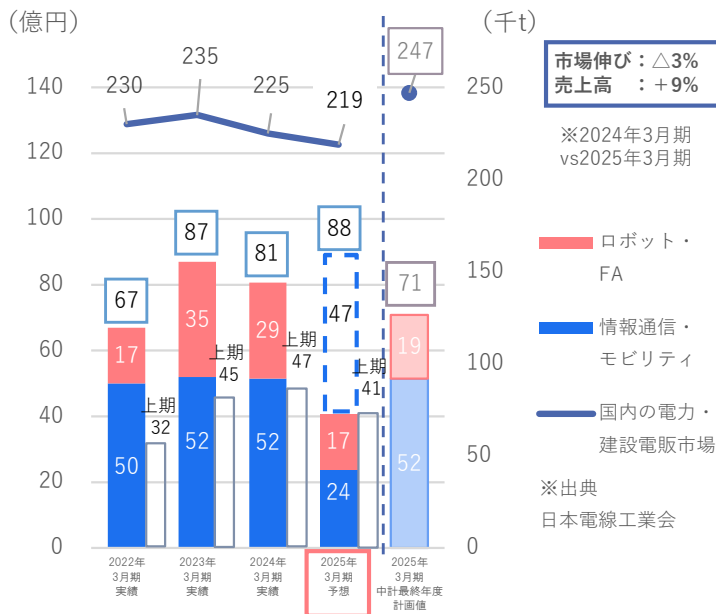
- 国内では、電線ケーブル不足が落ち着く中、主要顧客への販売を進め増収
- 海外では、米国市場向けコンパウンドの販売を進め増収

2025年3月期 下期施策

- 国内では、建設電販市場向けコンパウンドを拡販
- 海外では、ASEAN市場向けコンパウンドを拡販

重点分野② 情報通信

国内生産の情報通信市場向け電線銅量と当社コンパウンド売上高 (億円)



2025年3月期 上期実績

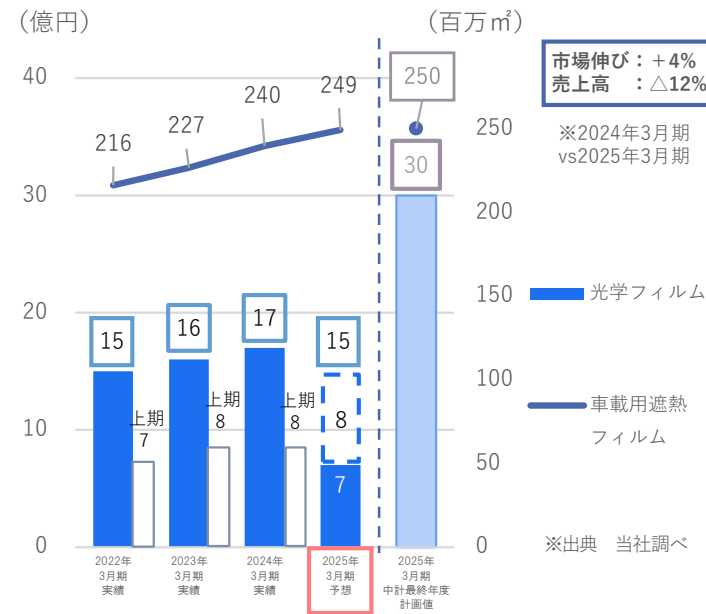
- 国内では、EV用充電ケーブル材の北米輸出向けで拡販が進むも、国内情報通信、ロボット・FA市場の低迷により減収
- 海外では、中国におけるロボット・FA・機器電線市場への拡販により増収

2025年3月期 下期施策

- 国内では、EV用充電ケーブル材のグローバルでの拡販、及び情報通信モビリティ市場、ロボット・FA電線市場への拡販
- 海外では、中国におけるロボット・FA・機器電線市場への拡販

重点分野③ 光学フィルム

車載用遮熱フィルム需要と当社光学用フィルム売上高 (億円)



2025年3月期 上期実績

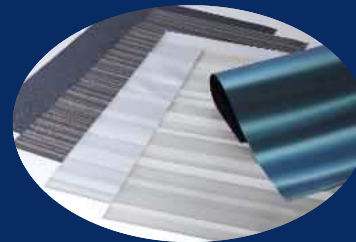
- 半導体用フィルムは販売減少により減収
- 車載用フィルムは、ASEANでの拡販進まず横這い

2025年3月期 下期施策

- 半導体用フィルムは新規品開発と海外向け拡販
- 車載用フィルムはASEANで拡販

Building & Construction

ビルディング&コンストラクション



建装用フィルム



住宅・建築資材



Building & Construction



| 2.セグメント別概況

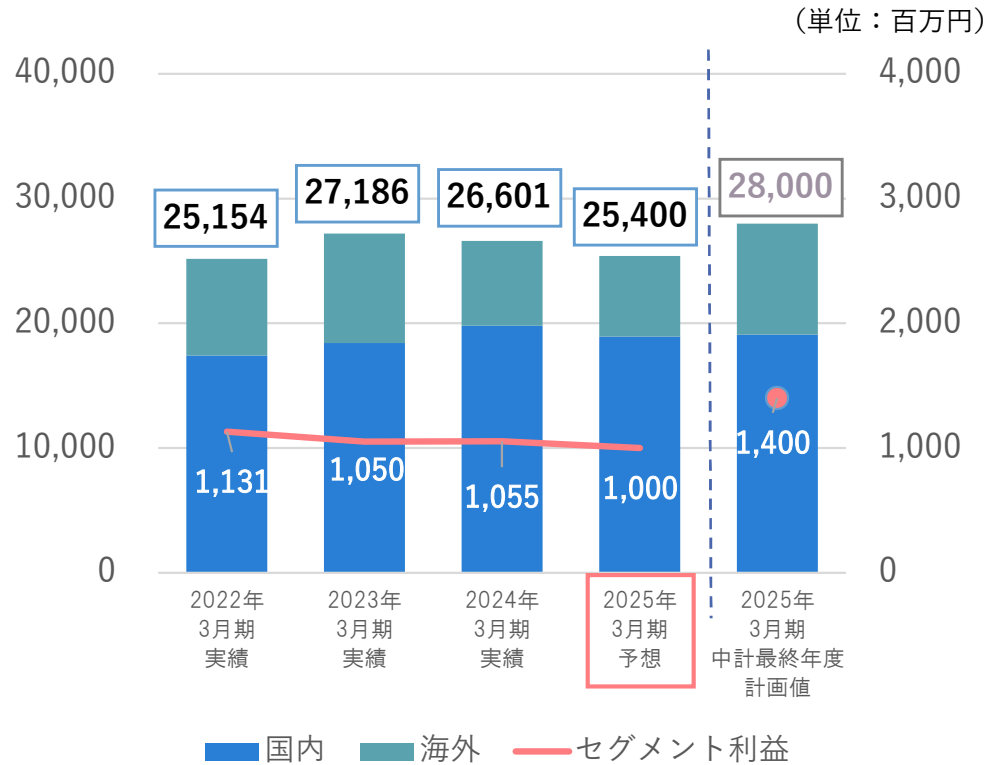
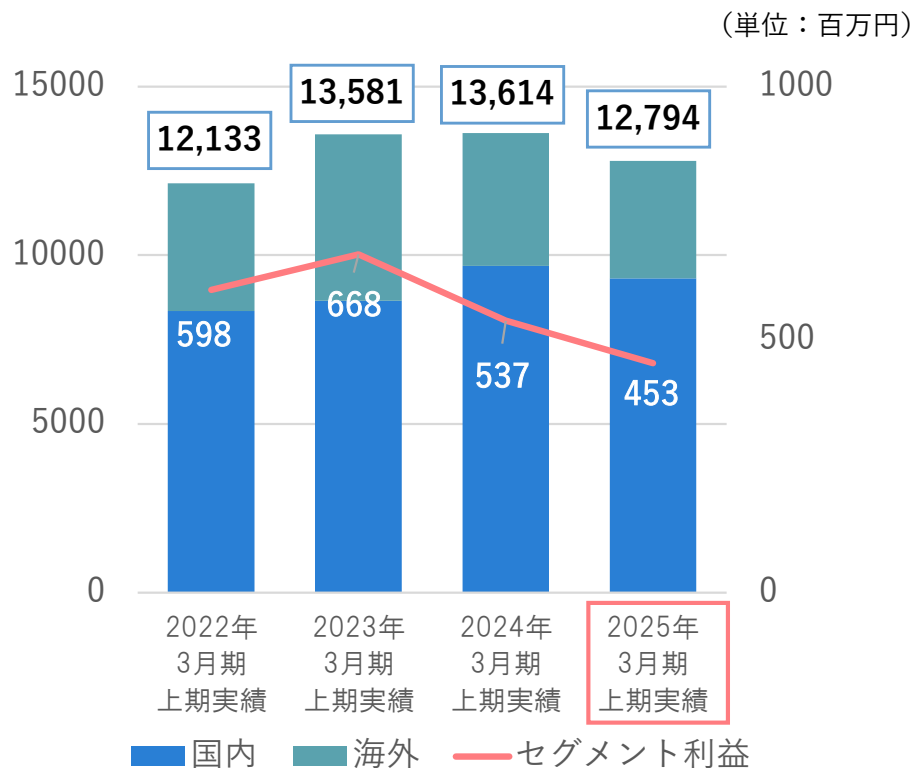


2025年3月期
上期実績

820百万円減収 (△6.0%)
84百万円減益 (△15.6%)

2025年3月期
通期予想

1,201百万円減収 (△4.5%)
55百万円減益 (△5.2%)

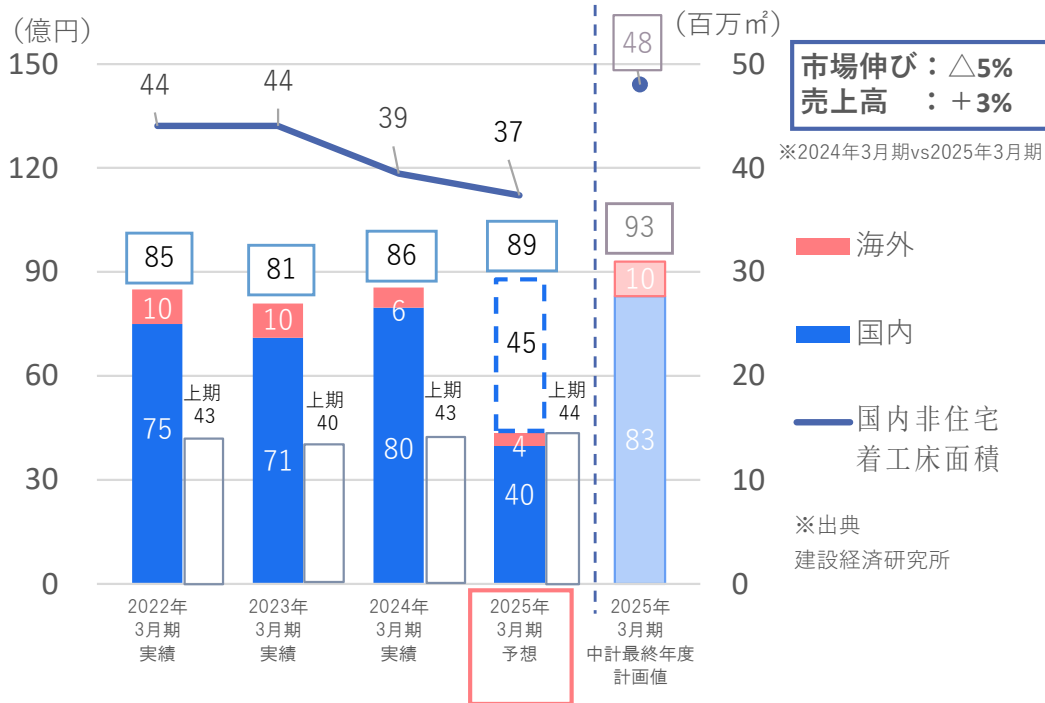


- 国内では、樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの特需が落ち着いたことによる販売減少及び建材用フィルムの販売の減少により、減収
- 海外では、米国での建材市場向け塩ビコンパウンドの販売が減少し、減収
- セグメント利益は、国内の塩ビコンパウンドの販売減少により、減益

- 国内では、住宅・非住宅市場向けコンパウンドの販売減少により、減収
- 海外では、上期における米国の建材市場向け塩ビコンパウンドの販売減少の影響により、減収
- セグメント利益は、国内・海外の販売減少により、減益

重点分野① 建装用フィルム

国内非住宅着工床面積と当社建装用フィルム売上高



2025年3月期 上期実績

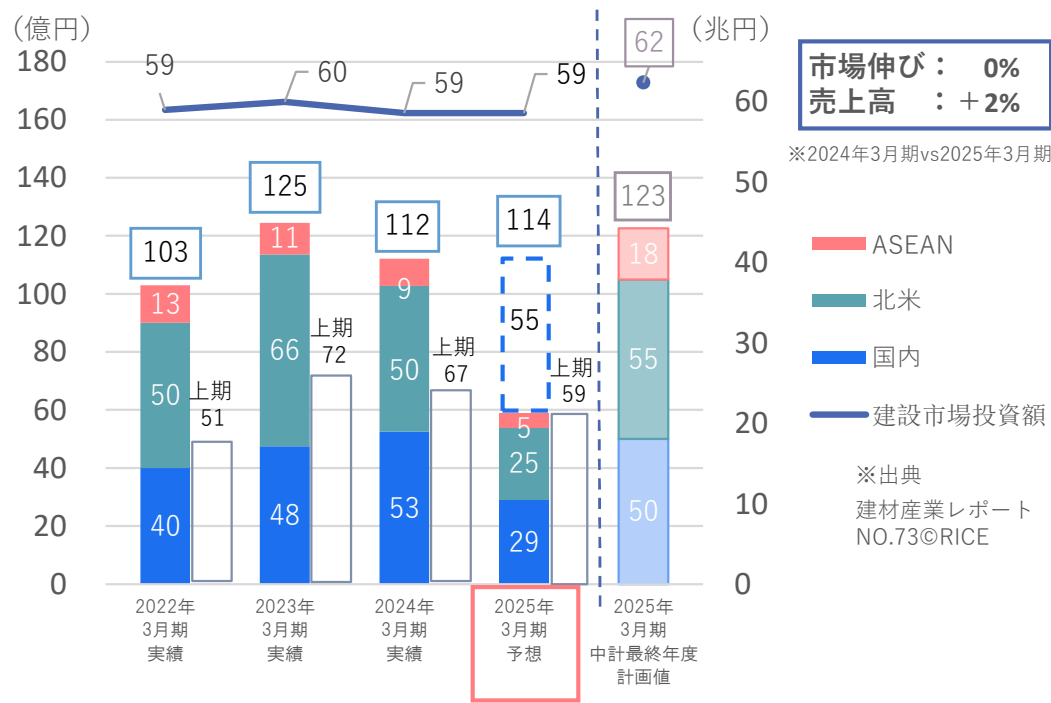
- 国内では、市況が低調に推移したものの主要顧客への販売が増加
- 海外では、北米での需要取り込みにより販売が増加

2025年3月期 下期施策

- 国内では、市況が引き続き低調に推移する中、非住宅市場の拡販や外装用途への製品開発を推進
- 海外では、既存製品での北米市場の需要取り込みを継続

重点分野② 住宅・建築資材

建設市場投資額と当社住宅・建築資材向けコンパウンド売上高



2025年3月期 上期実績

- 国内では、「住宅省エネキャンペーン」特需が落ち着いたことにより、樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売が減少
- 海外では、米国の住宅市況が低調に推移。建材市場向け塩ビコンパウンドの拡販進まず

2025年3月期 下期施策

- 国内では、建築資材・住設部材用塩ビコンパウンドの拡販
- 海外では、ASEANでの住設部材の拡販と北米での建築資材のマーケティング活動から開発案件の開拓を継続



3.中長期的取り組み

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み

中長期的にありたい姿 ・中期経営計画

| 3.中長期的取り組み



- リケンテクノスグループのミッションに基づき長期ビジョンを策定
- 長期ビジョンの実現に向け2022年度より3ヵ年中期経営計画を始動

リケンテクノスの
強み/ビジネスモデル

- グローバル展開する優良顧客に対して、お客様の望むものを届ける力
- 高い技術力
 - 処方設計技術
 - 混練技術
 - カレンダー製膜技術

リケンテクノスを取り巻く
(中長期の)環境

- 脱プラの動き
- 環境意識の高まり
- デジタル化の潮流
- EV化の進展
- 国内市場の縮小
- アジアの成長

ミッション
(=存在意義)

私たちは科学の力で豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです。
独創的で卓越した樹脂素材の配合加工技術で、
企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

長期ビジョン

すべての生活空間に快適さを提供する
リーディングカンパニーを目指して

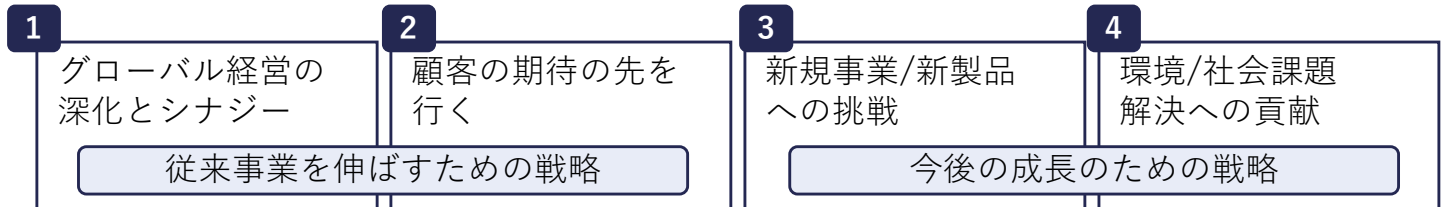
中期経営計画

経営方針



Challenge Now
for Change New 2024
変革への挑戦

中期経営計画の4つの基本戦略



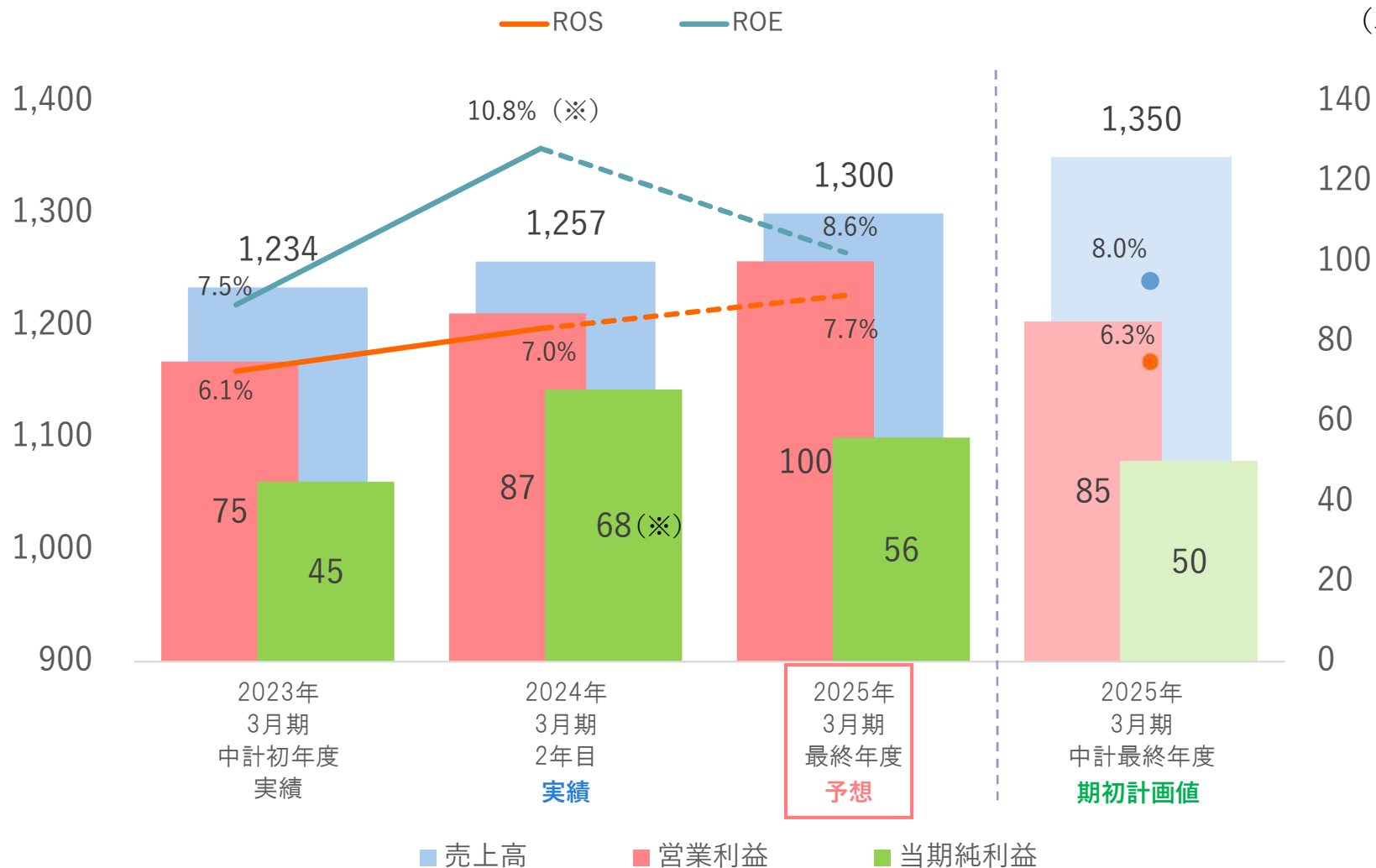
戦略1～4を支える戦略/施策

設備投資/製造 DX投資 人材投資 知財(研究開発)投資 ガバナンス

3カ年中期経営計画（計数計画） | 3.中長期的取り組み



(単位：億円)



※2024年3月期の当期純利益・ROEは、政策保有株式の売却益を含む

中計計数策定の前提条件

2025年3月期計画 ナフサ価格：61千円/KL 為替：114円/USD

3カ年中期経営計画 (2025年3月期 上期実績) | 3.中長期的取り組み



戦略①グローバル経営の深化とシナジー

- ベトナム拠点新工場建屋完成、設備据付工事完了
北米拠点新ライン増設工事進捗
- グローバル品質管理コンソーシアム参加拠点拡大による品質管理基準の浸透促進
- 次期グローバル基幹システム導入PJによる、改革テーマの選定・システム要件整理の実施
- グローバルプロダクションサミットを再開し、拠点間の製造課題・改善事例を共有

戦略②顧客の期待の先を行く

- 主要顧客との技術交流会（上期実績7件）を実施し、顧客の潜在ニーズを発掘
- 研究開発部門でのMIの活用によりゴム代替エラストマーの開発が進展
- 将来の業界課題やトレンドに対し解決への提案を行い、顧客とともに課題解決の取組実施
- SFA/CRMの運用継続・効果検証

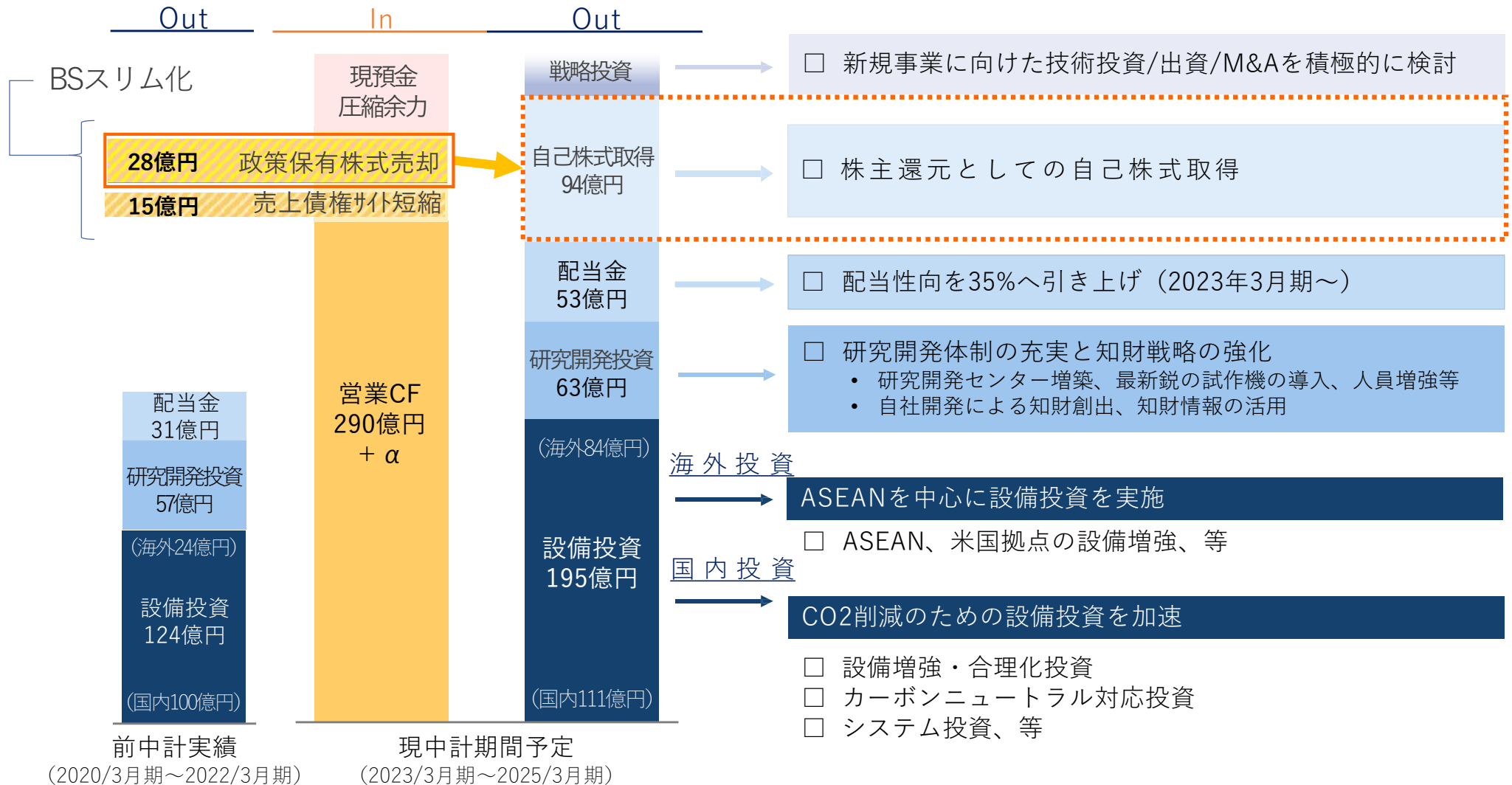
戦略③新規事業／新製品への挑戦

- 産学・産産・産学官連携の推進（コンパウンド・フィルム分野、循環型経済・地球環境改善テーマで協働中）
- 新規事業検討の一環として、エネルギー関連テーマを選定
- ゴム代替エラストマー、建物・車載用途の新規ウインドウフィルム開発
- DE&I推進プロジェクトを発足し、新しい発想が生まれる環境の整備を推進

戦略④環境／社会課題解決への貢献

- 気候変動によるリスク／機会の影響度を1.5°Cシナリオで再分析し、TCFD提言に基づき情報開示
- 購入電力の非石化率の向上によるCO₂排出量削減
- 人権リスクを特定し、人権デューディリジェンスを開始
- 従業員へのSDGs／サステナビリティ研修の実施

➤ 成長投資を軸としたキャッシュアロケーションの実現を目指す



投資（実績と予測）

| 3.中長期的取り組み



設備投資/システム投資

3カ年中期経営計画（当初計画値）：195億円

(単位：億円)	主要案件	総額	海外比率		減価償却費	
			国内	海外		
2023年3月期 実績	ASEANにおける設備増設 国内設備増強 国内外合理化投資	47	33	14	30%	31
2024年3月期 実績	ASEAN・米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内外カーボンニュートラル対応 国内外合理化投資 国内外システム投資	64	32	32	50%	34
2025年3月期 予測	ASEAN・米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内外カーボンニュートラル対応 国内外合理化投資 国内外システム投資	84	46	38	45%	38
合計		195	111	84	43%	103

主な設備投資

| 3.中長期的取り組み



 **RIKEN VIETNAM CO., LTD.**
塩ビコンパウンド生産設備増設

新工場建屋、新ライン、倉庫増設
ワイヤーハーネスを中心とした自動車用部材、一般電線用途の需要を取り込み、成長が望めるベトナム市場で販売拡大

《進捗》
✓ 2024年11月 稼働開始
✓ 投資総額：約17億円



 **RIKEN ELASTOMERS CORPORATION**
塩ビコンパウンド生産設備増設

既存建屋に新ライン増設

《進捗》
✓ 2025年1月 稼働予定
✓ 投資総額：約16億円



 **リケンテクノス（三重工場）**
熱可塑性エラストマーコンパウンド生産設備増設

既存建屋に新ライン増設

《進捗》
✓ 2025年3Q 稼働予定
✓ 投資総額：約12億円



合理化・研究開発投資

- ✓ 生産性向上、省人・省力・省エネ投資
- ✓ 生産計画自動化
- ✓ 開発評価の効率化のための投資
- ✓ 投資金額：約5億円（2025年3月期）

DX投資

- ✓ 次期グローバル基幹システム導入に向けた要件整理実施
- ✓ IoT投資（センシング・RFID・OTネットワーク構築）
- ✓ 米子会社のグループ基幹システム刷新・統合
- ✓ 投資金額：約8億円（2025年3月期）

研究開発の取り組み

新製品開発・研究の取り組み

➤ ゴム代替エラストマーの開発と性能拡充

- ・ ゴム代替用途に適した新規架橋系熱可塑性エラストマー開発

ゴム代替架橋系熱可塑性エラストマー

- ・ EPDM代替
- ・ NBR代替
- ・ ブチルゴム代替
- ・ 汎用ゴム代替

➤ 建物・車載用途の新規ウインドウフィルム開発

- ・ 高遮熱性を有するフィルムの開発



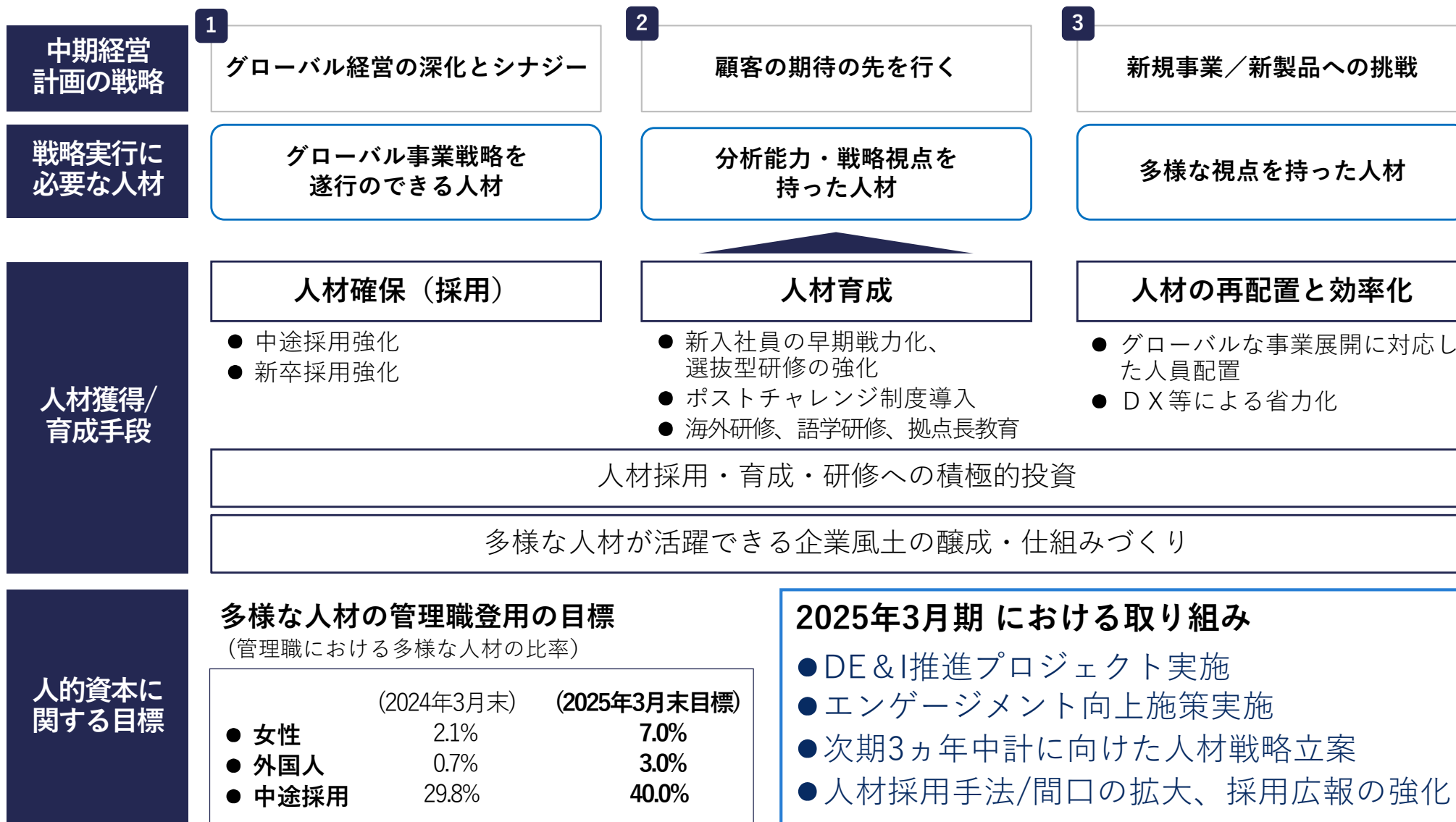
オープンイノベーションの取り組み

➤ 外部機関との協業の推進

- ・ 使用済みPVC製品の再資源化を複数のアカデミアと検討強化
- ・ プラネタリー・バウンダリー※を意識した地球環境改善手法の検討開始

※ 人類が地球環境と生存できる領域と限界点を定義する概念。ヨハン・ロックストローム博士らが提唱し、地球環境が許容できる限界を項目ごとに定めている。

➤ 中期経営計画の達成に向け人材面においても、人材獲得・育成における取り組みを推進



気候変動への対応

➤ CO₂排出量 指標と目標

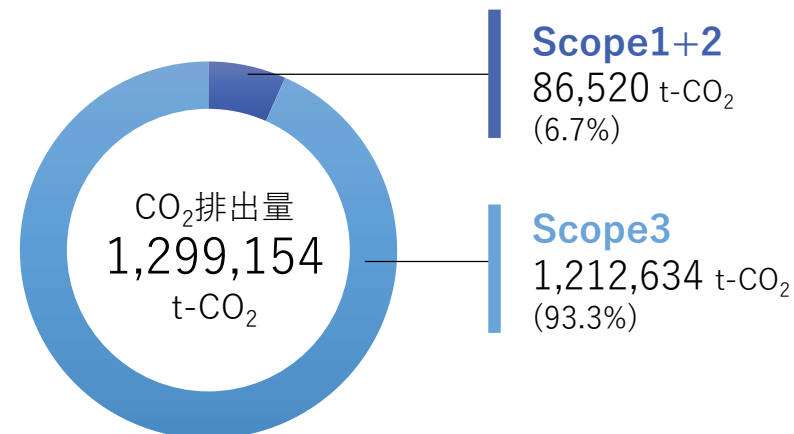
(t-CO₂)

単体 (Scope1+2)	2030年目標	2019年度比46.2%削減 (24,139)
グループ (Scope1+2)	2050年目標	カーボンニュートラル (0)

➤ 実績

		2023年3月期	2024年3月期 (t-CO ₂)
Scope1+2	単体	41,139	40,859
	グループ	86,220	86,520
Scope3 *	グループ	1,160,807	1,212,634

*該当しないカテゴリーを除く当社グループの排出量を算出



➤ カーボンニュートラルに向けたCO₂排出量削減の取り組み

- ・エネルギー効率の維持・向上を目的とした製造設備の点検・改修
- ・既存設備の省エネ設備への更新 (ボイラー、変圧器等)
- ・太陽光発電設備の増設
- ・ボイラーのエネルギー転換 (重油→天然ガス) を計画

RIKEN (THAILAND) CO., LTD. での環境対応投資

工場敷地内への太陽光発電設備の導入

《進捗》

- ✓ 2025年3Q 稼働予定
- ✓ 投資総額：約3億円



➤ 経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行し、資本効率を向上させ株主還元に資するため、2024年7月31日の取締役会にて自己株式取得に係る事項を決議し、自己株式取得を実施

➤ 取得に係る事項の内容

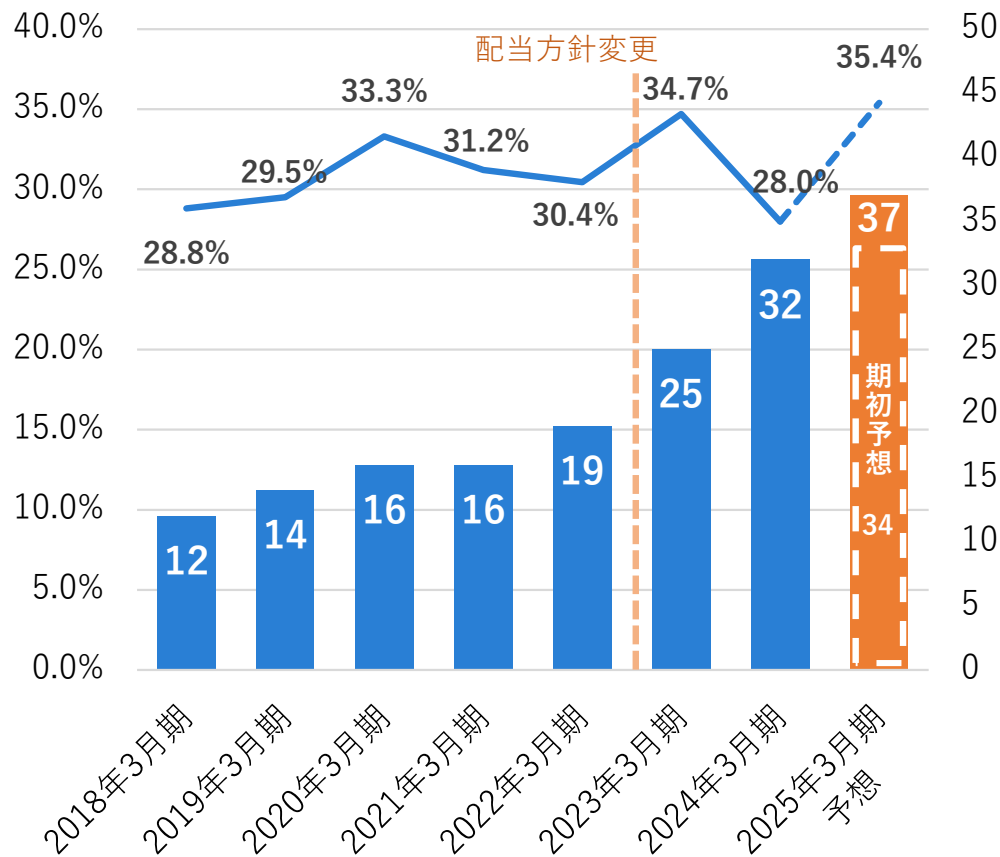
(1) 取得対象株式の種類	普通株式
(2) 取得した株式の総数	250万株
(3) 株式の取得価額の総額	2,427百万円
(4) 取得期間	2024年8月9日～2024年10月25日
(5) 取得資金	自己資金を充当

取得株式は全株消却予定

➤ 財務状況と事業のバランスも考慮しつつ安定的な配当を行う方針

➤ 2023年3月期より連結配当性向を35%程度へ引き上げ、2025年3月期も増配を予定

配当性向と配当額推移



配当方針

- 連結配当性向35%程度を一つの目途とした上で、今後の事業投資・自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行う

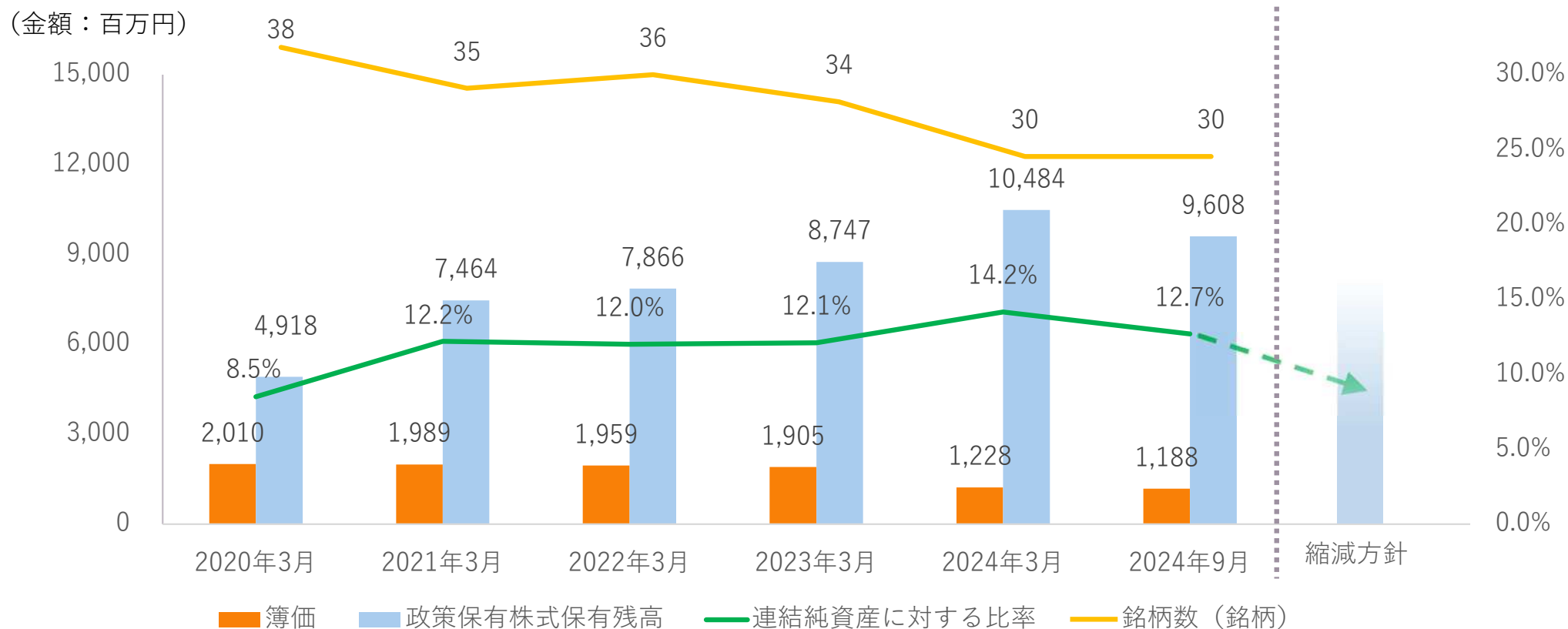
※2024年3月期の年間配当金は、投資有価証券売却益の影響額を除いた1株当たり当期純利益で算定。自己株式の取得も含めた総還元性向は129.1%

2025年3月期 配当見通し

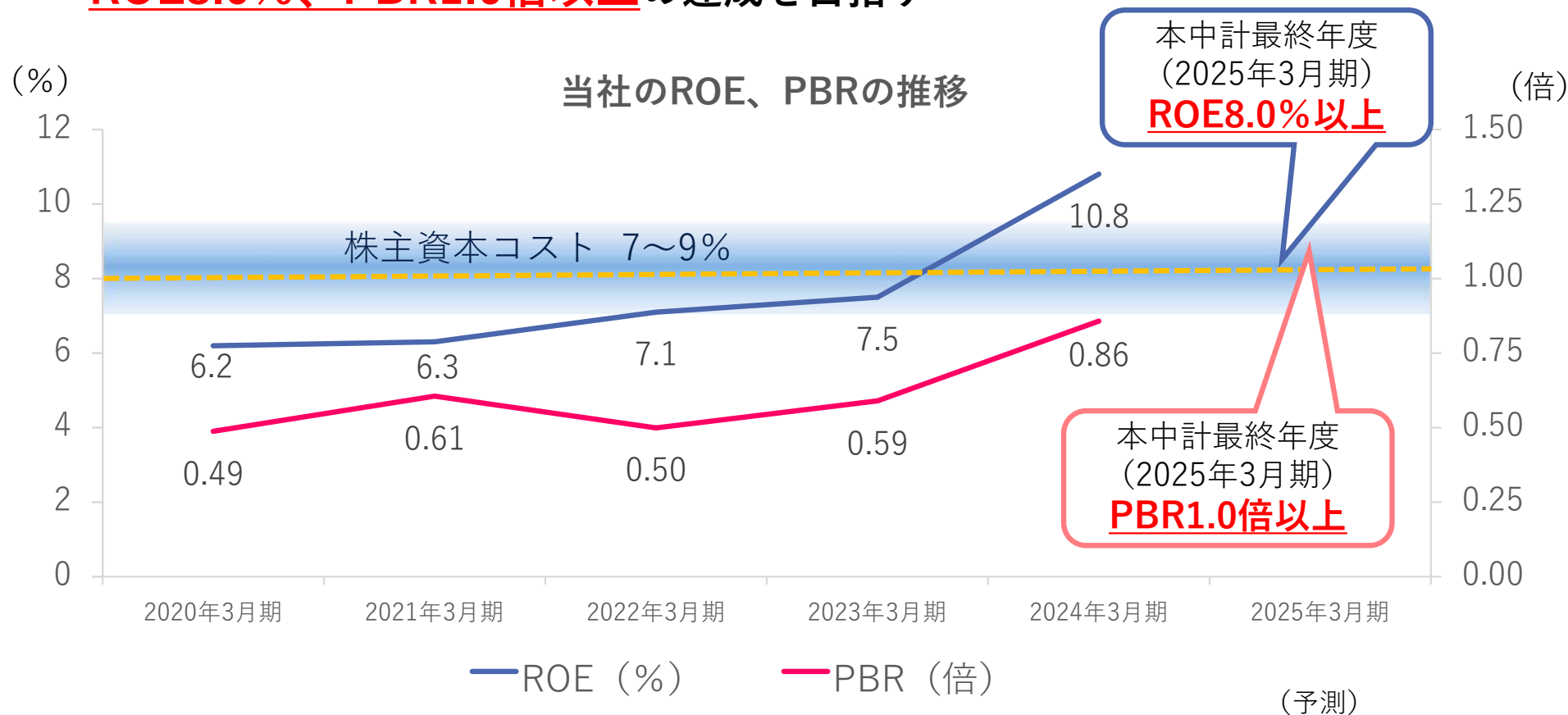
- 前期32円 ⇒ 37円に5円の増配予定
(期初予想比3円の上方修正)
- 連結配当性向は、35.4% (予想)
- 総還元性向は、78.7% (予想)

- 保有残高を連結純資産の10%未満にする方針のもと縮減を推進
- 2025年3月期は、30銘柄中6銘柄について一部を売却

政策保有株式の保有状況の推移



➤各戦略を確実に実行することで、2025年3月期において
ROE8.0%、PBR1.0倍以上の達成を目指す



ROIC	6.5%	6.2%	7.1%	8.0%	9.3%	11.0%
WACC	6~8%					

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経営企画部/経理部



会社概要



社名	リケンテクノス株式会社
設立年月日	1951年（昭和26年）3月30日
資本金	85億14百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 常盤和明
従業員数	連結1,905名 単体793名（2024年9月30日現在）
本社所在地	〒101-8336 東京都千代田区神田淡路町 二丁目101番地 ワテラスタワー



経営理念（リケンテクノス ウェイ）



創業当時から引き継いでいる「ベンチャー精神」こそ、リケンテクノスの強みであり、「リケンテクノスらしさ」です。

この「リケンテクノスらしさ」をもとに経営理念である「リケンテクノス ウェイ」は策定されました。

ミッションにある「チャレンジメーカー」という言葉は造語ですが、

製造業という意味でのメーカーの他に、挑戦して何かを創り出す人という意味もこめられています。

未来への飛躍のために、これからも挑戦し続けていきます。

ミッション “使命・存在価値”

私たちは科学の力で

豊かさ、安心、快適を創り出すチャレンジメーカーです。

独創的で卓越した、樹脂素材の配合加工技術で、

企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

コア・バリュー “基本的価値観”

信頼しあい貢献しあう 新しい価値を生み出す

常に挑戦し成長する 仕事を楽しみワクワクする

共に解決し共に喜ぶ

基本行動 “具体的な行動指針”

失敗を恐れず前向きにやってみる 主役になって仕事を楽しむ

信頼しあう仲間となって助け合う 大事に聴いて本気で話す

笑顔で出てきて笑顔で帰る 顧客の期待の先に行く

新しいことマニアになる プロなんだから自分を磨く

決めたところまで決めた時期まで



事業領域



➤ 合成樹脂加工に係わる総合的な技術をベースに「コンパウンド」、「フィルム」、「食品包材」の3つの主要製品を柱に各用途に応じた加工で幅広い産業に製品を供給、国内外で事業を展開しています

セグメント

主要製品	概要	トランス ポーション	デイリーライフ & ヘルスケア	エレクトロニクス	ビルディング & コンストラクション
コンパウンド	ベースの樹脂に添加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性質を持たせた複合材料で、主に押出成形や射出成形に使われる素材。塩化ビニル樹脂をはじめ、熱可塑性エラストマー、難燃性・導電性高機能コンパウンドを開発、製造、販売	<ul style="list-style-type: none"> ●ワイヤーハーネス用コンパウンド ●窓枠用コンパウンド 	<ul style="list-style-type: none"> ●シリンジガスケット用コンパウンド ●血液回路用コンパウンド 	●電力電線用コンパウンド 	●断熱窓枠用コンパウンド
フィルム	配合した樹脂の特性に適した製法で高品質フィルム製膜を実施。また、複数のフィルムを貼り合わせたり、表面に塗料をコートすることにより、意匠性や機能性を付与したフィルム製品を開発、製造、販売	●ウィンドウ用フィルム RIVEX®(リベックス®) 	●抗ウイルス・抗菌フィルム 	●半導体関連フィルム 	●高級壁装用フィルム
食品包材	日本で初めて塩化ビニル樹脂のラップを開発したパイオニアとして、家庭用から業務用まで、食品包装用ラップの品質・性能を追求するとともに、食品や自動包装机などに適したラップを開発、製造、販売	<ul style="list-style-type: none"> ●塩ビラップ ●ポタニカルラップ 			

事業を通じた環境への貢献

- 従来事業の塩化ビニル、エラストマーにおいても「省エネルギー」や「省資源」、「リサイクル」などのテーマをもっています
- これら製品の拡販が環境保護に対する貢献につながります

樹脂	特徴	当社製品	拡販状況・方針
塩化ビニル	<ul style="list-style-type: none">■ 塩化ビニルの約60%は天然素材の「塩」に由来<ul style="list-style-type: none">・ 耐久性・加工性・難燃性・耐候性など用途に応じた機能の付与が可能・ 資源エネルギー消費量は、石油からの炭化水素を主とする樹脂(ポリエチレンやポリプロピレン)が45.6～46.5MJ/kgであるのに対して、塩ビは21.3MJ/kgと他樹脂の半分以下*であり、負荷が少ない	<p>塩ビ樹脂製内窓用サッシ 形成材料としてリサイクルが可能</p> 	ZEH政策により、樹脂サッシは引き続き旺盛な需要が継続する見込みで、塩ビコンパウンドの拡販に注力する方針
エラストマー	<ul style="list-style-type: none">■ 「ゴム特性」を有しながら、CO2排出量削減、省エネルギー化に貢献できる素材<ul style="list-style-type: none">・ 熱可塑性エラストマーはリサイクル可能で、従来ゴムと比較して、成型時間も短いためCO2排出量を少なくできる・ また素材の特徴として軽量なため、自動車の軽量化・燃費向上等の省エネルギー化に貢献する	<p>耐油性ゴムと同等の機能を有する “高耐油 TPV ACTYMER®K”</p> 	自動車の燃費向上や車体軽量化を目的とした素材転換、ゴム代替のトレンドは継続見込み、該当する機能部材の拡販に注力する方針

*出典：塩ビ工業・環境協会HPより作成

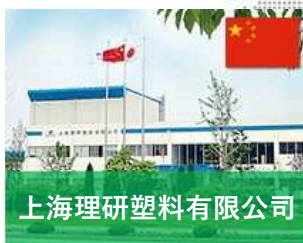
グローバルネットワーク



- 製造会社
- 販売会社

- リケンテクノス株式会社
- 国内子会社

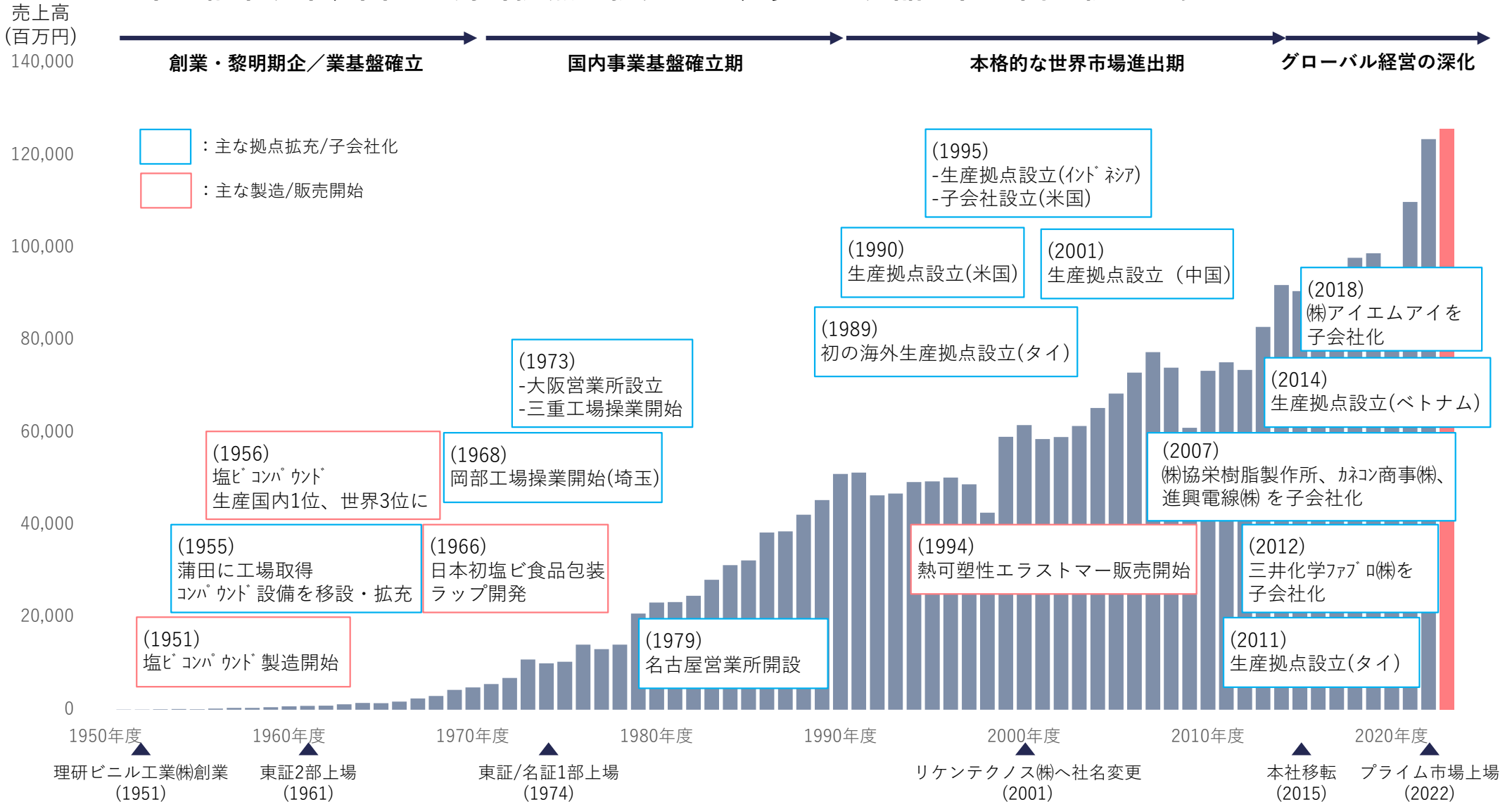
- リケンケーブルテクノロジー株式会社
- リケンケミカルプロダクツ株式会社
- 株式会社協栄樹脂製作所
- 株式会社アイエムアイ



価値創造のあゆみ



➤ 1951年の創業以来、国内・海外拠点を拡充させ、多くの製品を世に出し続けて参りました



*1999年度より連結決算開始に伴い連結売上高を記載